

# 下田市観光まちづくり推進計画

—快国のまち下田を目指して—

「営みが活きるまちへ」編



静岡県下田市

平成25年4月

## はじめに

官民一体、市民一丸で

### 暮らす人も、訪れる人も快適なまち「快国」下田

を目指しましょう。



このたび、下田市の観光の具体的な行動指針となる「観光まちづくり推進計画」を策定しました。

私たちのまち下田市は、観光立市であり、観光を中核産業と位置付け、発展し、継続していく必要があります。

観光の語源・定義は「観光とはその国の光を観ることなり、旅行者は他国の文化を仰ぎ見、住民は自国の文化を誇らかに示す」とあることから、観光はそのまちの有様、まちづくりそのものであり、明快な地場産業、総合産業として位置づけられます。

また、観光地におけるまちづくりは、年間を通じて永続的に観光客で賑わうことを手段と捉え、その賑わいを活用して循環型の地域経済を構築し、その最終目的は、地域住民が自立し、豊かになることにあります。

そして、持続可能な地域を創出するためには、地域社会のあらゆる構成員が主体となり、自然、文化、歴史、産業などのすべての地域資源を活かし、地域経済の活性化を促すための活動が必要となります。

本計画は、この一連の活動を「観光まちづくり」と位置付け実践するものですが、実践するためには、広い視野と経験を持ち、まちを愛する心が強い、複数の異なるタイプの人たちが、互いに補い、刺激しあいながら成長し、まちづくりを推進しなければなりません。

「自分たちのまちを協力し合って良くしていこう」という共通の想いと明確な目的意識を持ち、多様な手法を駆使し、成功するまでやり続ける強い意志と決意を持つことが、失敗しないための秘訣と考えております。

今後も人口減少、少子高齢化や経済状況など、本市を取り巻く環境は厳しさを増していくことが予想されます。

この厳しい状況を乗り越えるためには、定住人口のみに頼るのではなく、交流人口まで対象にしたまちづくりが求められています。

また、観光客が旅することに求める「非日常」は、私たちのまちの「日常」ですから、一流の観光地になるためには、一流の生活地になる必要があります。

「営みが活きるまち」として地域経済が発展し、「暮らしが和むまち」として生活環境を整備し、「志が育まれるまち」としてヒトと地域コミュニティを育成していくことこそが、「快適で快活な観光地」を創ることに繋がります。

経済、環境、コミュニティの3つの柱が調和した持続可能な地域を創出するため、本計画を推進し、第4次下田市総合計画に掲げた将来都市像である「自然と歴史を活かし、やすらぎと活力のある美しいまち」の実現を目指してまいりますので、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたりまして、ご尽力を賜りました委員並びに市議会議員の皆さまをはじめ、経済団体の皆さまやパブリックコメントなどで貴重なご意見、ご提言をいただきました市民の皆さまに心からお礼を申し上げます。

平成25年4月

下田市長 楠山俊介

## 下田市民憲章（昭和45年12月21日告示第32号）

わたくしたちの住む下田は、開港の歴史に彩られ、近代日本にれい明をもたらした港と海と山に囲まれたいで湯のまちであります。

わたくしたち、下田市民は、この郷土に限りない愛情と誇りをもち、わがまちをより美しく住みよいまちとするために、こゝに市民憲章を制定し、これを生活の信条として、更に自覚を深め、いましめ合って、よりよい市民となることを誓います。

- 1 下田の街は、我等の姿、美しい街をつくりましょう。
- 2 下田の港は、我等のふるさと、訪れる人を温かく迎えましょう。
- 3 郷土の歴史は、我等の誇り、住みよい街をつくりましょう。
- 4 はまゆうは、我等の香り、自然を大切に守りましょう。
- 5 太平洋は、我等の力、力いっぱいはげみましょう。

## 下田市平和都市宣言（平成21年12月11日可決）

開港の歴史に彩られ、近代日本に黎明をもたらした港と海と山に囲まれた、いで湯のまち、下田。この素晴らしいまちで、平和で豊かな暮らしを次の世代に引き継ぐことが、私たち下田市民の願いである。

世界平和の実現は人類共通の願いであるが、今なおこの地球上では、戦争やテロリズムなどにより尊い人命が失われており、核兵器の拡散も懸念されている。

私たちは、このかけがえのない地球の平和と美しい自然を守るため、あらためて日本国憲法の掲げる恒久平和の理念のもと、核兵器など大量破壊兵器の廃絶と世界平和の実現に貢献することを表明し、下田市が平和都市であることを宣言する。

# 目次

頁

<b>第1章</b>	<b>計画策定にあたって</b>	・・・	2
1	計画策定の目的	・・・	2
2	計画の期間	・・・	2
3	計画の位置づけ	・・・	2
4	目標値とする指標	・・・	3
5	計画の構成	・・・	3
<b>第2章</b>	<b>産業の現状と課題</b>	・・・	4
1	入込客数の推移	・・・	4
2	産業分類別就業人口の推移	・・・	7
3	商業の状況	・・・	7
4	農業の状況	・・・	9
5	漁業の状況	・・・	10
6	市民意識調査	・・・	11
7	観光の現状分析	・・・	12
8	観光の主要な課題	・・・	13
<b>第3章</b>	<b>基本理念と計画の目指すところ</b>	・・・	15
1	基本理念、将来都市像	・・・	15
2	計画の目指すところ	・・・	15
3	基本方針	・・・	15
<b>第4章</b>	<b>アクションプラン</b>	・・・	18
1	提案事業	・・・	18
2	提案プロジェクト	・・・	21
3	プロジェクトの実践に向けて	・・・	30
<b>附属資料</b>			
○	下田市観光まちづくり推進計画の策定経過	・・・	32
○	下田市観光まちづくり推進計画策定体制	・・・	33
○	観光入込状況調	・・・	34

# 第1章 計画策定にあたって

## 1 計画策定の目的

本市の基幹産業である観光業は、景気の低迷や国内外との競合による影響など、多くの複合的な要因により低迷しており、このような経済状況は観光関連産業にとどまらず、負の連鎖として他の産業へ波及していくことが懸念されています。

また、南海トラフの巨大地震による津波高などが公表されたことに伴い、来遊者に対する安全対策や全市的な防災対策を早急に講ずることが求められています。

このような背景を踏まえ、今後の観光のあり方の基本的な方向を示し、第4次下田市総合計画の将来都市像である「自然と歴史を活かし、やすらぎと活力のある美しいまち」を実現するための指針として、下田市観光まちづくり推進計画（以下「本計画」という。）を策定します。

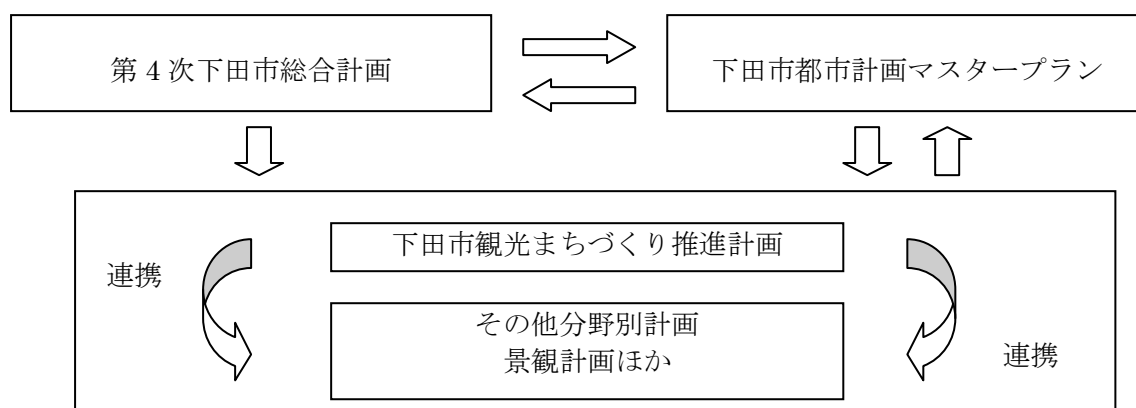
## 2 計画の期間

本計画の期間は、平成25年度から平成32年度までの8年間としますが、社会・経済・自然環境の変化などにより、見直しが必要になった場合は、下田市総合計画などと整合を図って見直すものとします。

なお、アクションプランに掲げたプロジェクト事業は、平成27年度に必要な応じ、見直すものとします。

## 3 計画の位置づけ

本計画は、第4次下田市総合計画の分野別計画として位置づけられ、本市の観光の新たなあり方の具体的な行動の指針とします。



また、本計画を推進するためには、行政のみでなくすべての市民や事業者、市民活動団体などとの協働が必要不可欠です。市民とともに歩むべき計画内容とし、市民や事業者、市民活動団体、行政が共有する計画とします。

## 4 目標値とする指標

第4次下田市総合計画の基本計画で明示された指標を目標値とし、達成状況を測定することとします。

数値系指標		総合計画現況値 (平成21年度)	目標値	
			平成27年度	平成32年度
観光交流客数	観光レクリエーション客数	2,077,177人	2,100,000人	2,200,000人
	観光宿泊客数	866,118人	900,000人	1,000,000人
外国人宿泊客数		2,692人	6,400人	12,200人
有効求人倍率		0.89	0.98	1.08
耕作放棄地調査による耕作放棄地面積		33.6ha	27.3ha	21.0ha
水揚高	数量	3,554 t	3,590 t	3,626 t
	金額	3,221,728千円	3,253,945千円	3,286,484千円
津波警告・避難誘導標識の充足率（設置数/目標数）		90%	100%	100%

意識系指標（市民満足度）	総合計画現況値 (平成21年度)	目標値	
		平成27年度	平成32年度
観光業の振興に満足している市民の割合	22%	36%	50%
産業間の相互の連携に満足している市民の割合	14%	32%	50%
商工業の振興に満足している市民の割合	14%	32%	50%
働きやすい環境の整備に満足している市民の割合	7%	29%	50%
農林水産業の振興に満足している市民の割合	28%	39%	50%
災害に強いまちづくりに満足している市民の割合	27%	38%	50%

注) 現況値は、第4次下田市総合計画の数値を記載しています。

## 5 計画の構成

本計画の構成は、以下のとおりとします。

<p>第1章 計画策定にあたって</p> <p>本計画策定の目的、計画期間、位置づけなどを示します。</p>
<p>第2章 産業の現状と課題</p> <p>本市の産業の現状を把握し、観光まちづくりを推進するための課題を明示します。</p>
<p>第3章 基本理念と計画の目指すところ</p> <p>分析結果を踏まえて、観光まちづくりの基本理念、目標、基本方針を示します。</p>
<p>第4章 アクションプラン</p> <p>観光まちづくりの目標・基本方針を踏まえて、アクションプランなどを提示します。</p>

## 第2章 産業の現状と課題

### 1 入込客数の推移

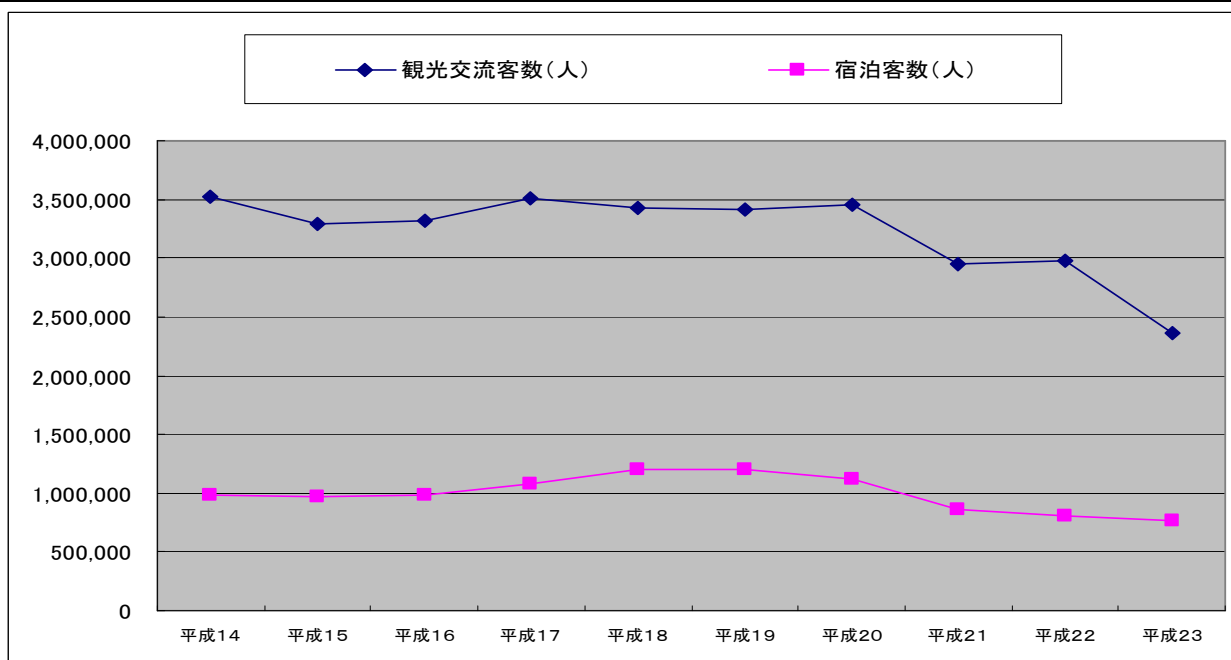
#### (1) 観光交流客数の推移

観光交流客数は、昭和62年の626万人をピークに減少傾向に転じましたが、平成9年度までは500万人台を維持していました。その後、平成21年度には300万人を下回り、ピーク時の半分以上にまで減少しました。平成14年度から平成20年度までの減少の程度は比較的緩やかでしたが、平成21年度は大きく減少し対前年85.14%、平成23年度は対前年79.94%となっています。

#### (2) 宿泊客数の推移

宿泊客数は、平成6年の187万人をピークに減少傾向に転じ、基本的には観光交流客数と同様の傾向にあります。平成17年度から平成20年度までは100万人まで回復しましたが、平成21年度はピーク時の47%、平成23年度はピーク時の41%の水準となり、大きく減少しています。

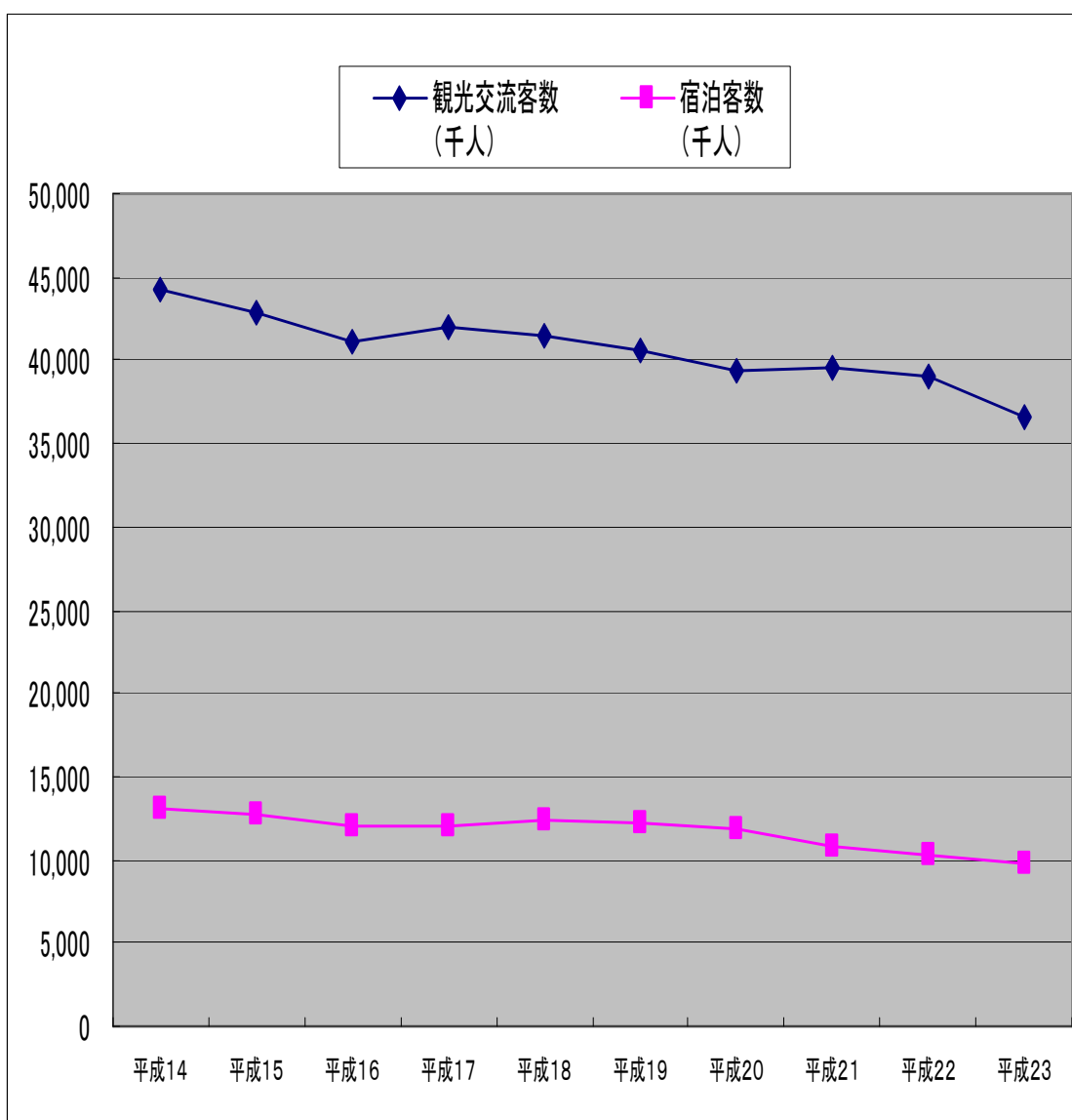
年度	観光交流客数 (人)	宿泊客数 (人)	観光交流客数 (前年比%)	宿泊客数 (前年比%)	特記事項
平成14	3,526,812	989,056	89.83	98.08	まどが浜海遊公園完成
平成15	3,284,810	972,185	93.14	98.29	お盆集中豪雨、NEWわかふじ国体
平成16	3,324,191	985,951	101.20	101.42	下田開港150周年、秋季台風強風被害
平成17	3,507,890	1,080,223	105.53	109.56	愛・地球博開催、日露修好150周年
平成18	3,429,193	1,198,556	97.76	110.95	伊豆ナンバー発進
平成19	3,418,601	1,194,808	99.69	99.69	景観行政団体知事同意
平成20	3,457,344	1,117,473	101.13	93.53	9/15リーマンショック(金融危機)
平成21	2,943,673	866,118	85.14	77.51	国民文化祭、鳥インフルエンザ
平成22	2,978,550	805,939	101.18	93.05	猛暑・3/11東日本大震災
平成23	2,380,979	763,957	79.94	94.79	黒船祭・ビッグシャワー中止



(資料) 静岡県観光交流の動向

【参考】伊豆地域の状況

年度	観光交流客数 (千人)	宿泊客数 (千人)	観光交流客数 (前年比%)	宿泊客数 (前年比%)
平成14	44,267	13,000	95.26	94.87
平成15	42,937	12,658	97.00	97.37
平成16	41,149	12,026	95.84	95.01
平成17	42,043	12,066	102.17	100.33
平成18	41,500	12,332	98.71	102.20
平成19	40,550	12,236	97.71	99.22
平成20	39,447	11,830	97.28	96.68
平成21	39,462	10,758	100.04	90.94
平成22	39,059	10,234	98.98	95.13
平成23	36,667	9,833	93.88	96.08



(資料) 静岡県観光交流の動向

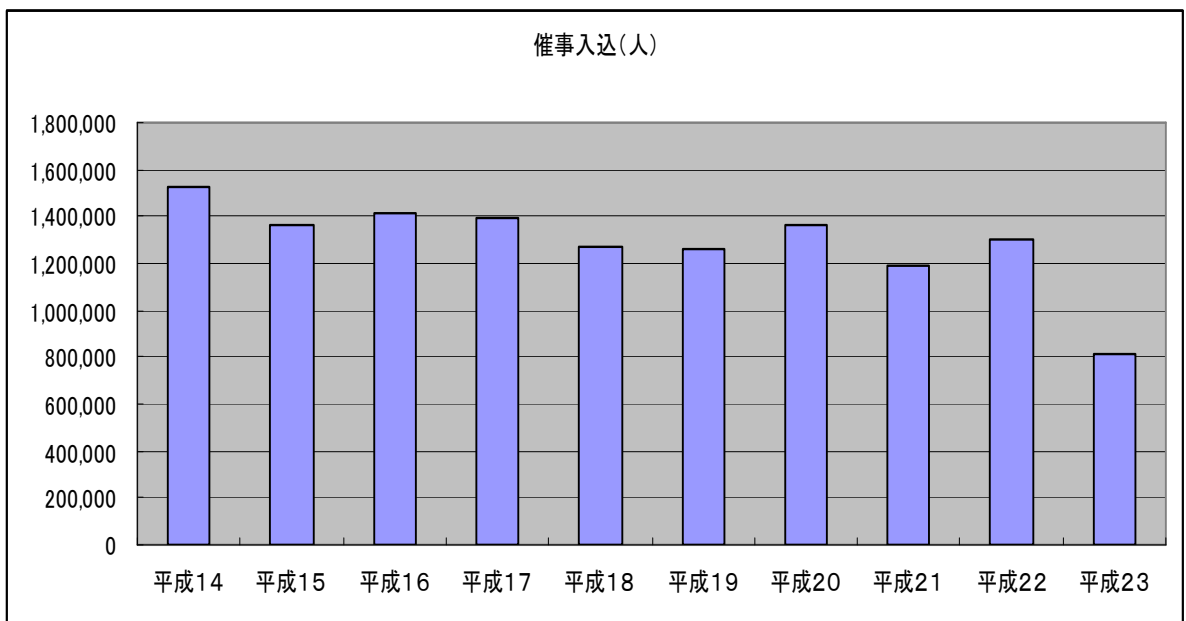
注) 伊豆地域は、7市（沼津、熱海、三島、伊東、下田、伊豆、伊豆の国）7町（東伊豆、河津、南伊豆、松崎、西伊豆、函南、清水）の集計結果による。



(3) 催事入込数の推移

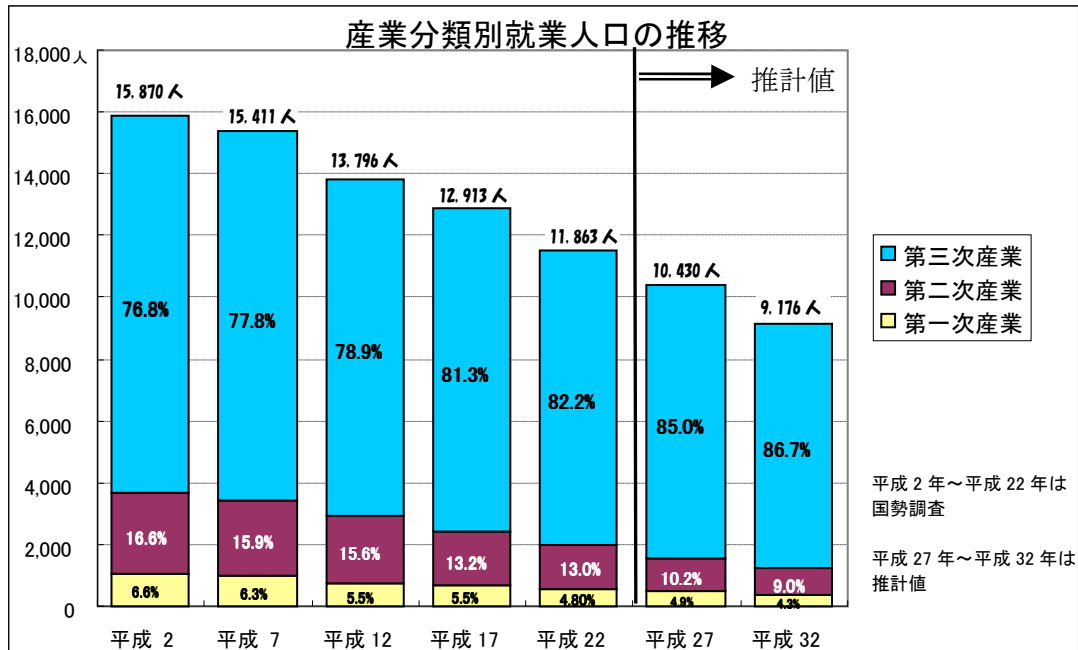
催事入込数は、昭和59年の260万人をピークに減少傾向に転じ、基本的には観光交流客数と同様の傾向にあります。催事入込数は、宿泊客数とともに観光交流客数を算定する基礎になりますが、特に、海水浴客数の増減が大きく影響する状況となっています。海水浴客のピークは昭和59年の173万人で、平成23年度はピーク時の27%の水準となり、大きく減少しています。

年度	催事入込数計	各催事の入込数(人)					
		海水浴客	水仙まつり	あじさい祭	黒船祭	ビッグシャワー	椿まつり
平成14	1,528,155	617,155	480,000	189,000	212,000	28,000	2,000
平成15	1,363,943	470,322	430,000	201,000	230,621	30,000	2,000
平成16	1,418,036	616,936	322,000	181,100	273,000	25,000	
平成17	1,390,366	609,996	341,000	192,900	216,470	30,000	
平成18	1,270,474	600,015	301,000	175,299	159,160	35,000	
平成19	1,261,012	572,467	272,000	186,100	200,445	30,000	
平成20	1,367,279	650,114	291,000	171,100	220,065	35,000	
平成21	1,189,056	543,321	250,000	181,200	184,535	30,000	
平成22	1,306,660	655,100	270,000	152,400	199,160	30,000	
平成23	811,390	474,590	224,000	112,800	中止	中止	



## 2 産業分類別就業人口の推移

国勢調査による本市の産業分類別就業人口の推移は、平成22年は11,863人でしたが、平成32年には約9,200人まで減少すると推計されます。また、産業分類別就業人口の比率は、第3次産業が全体の81.3%(平成17年)と大きく占めています。



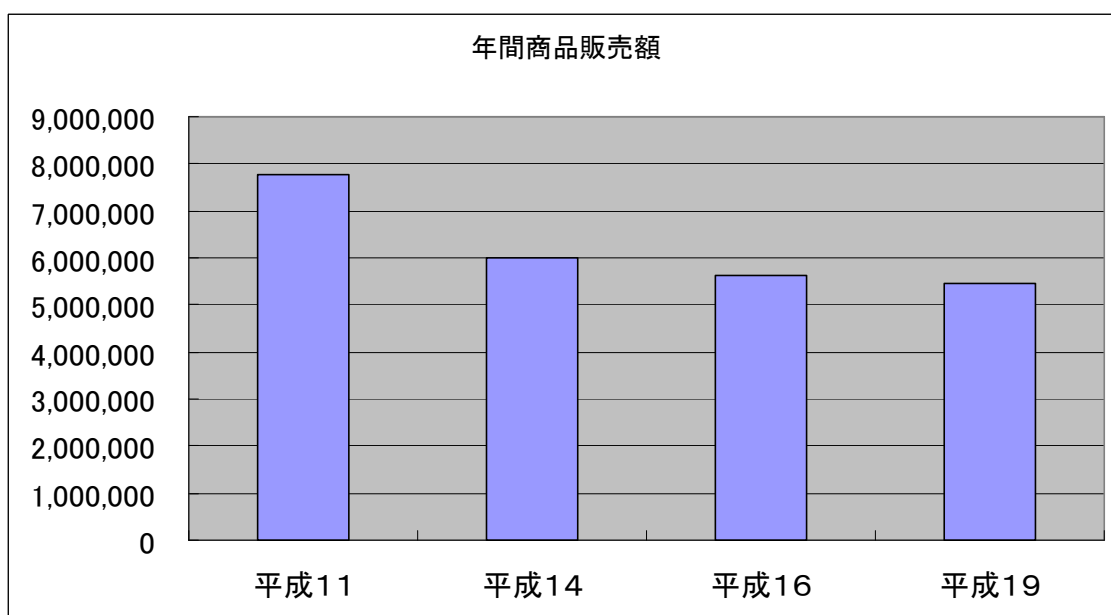
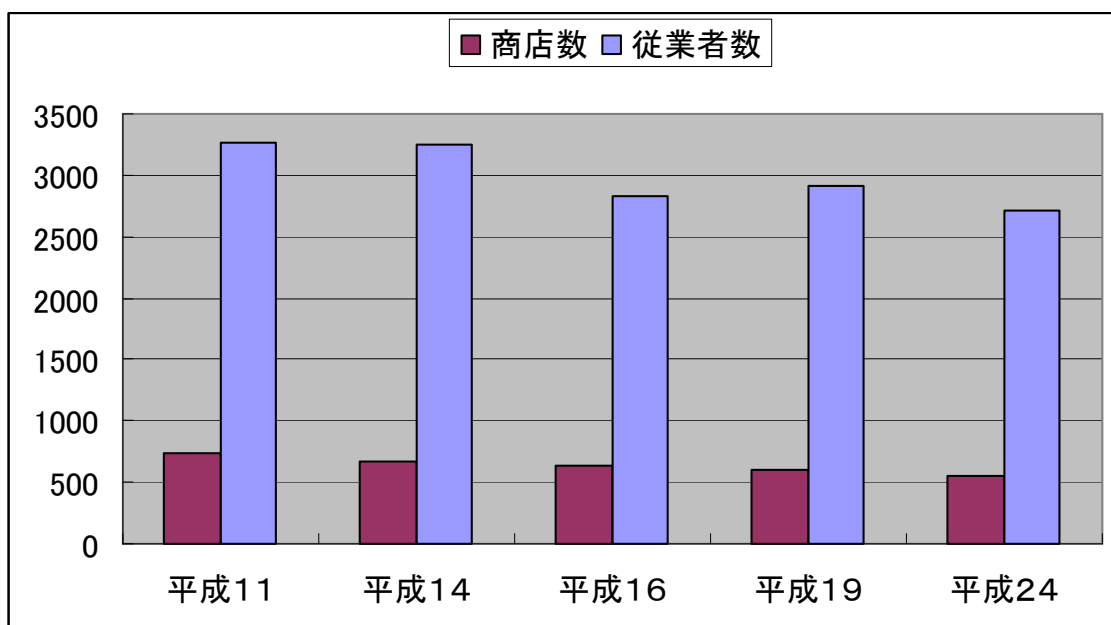
## 3 商業の状況

商業統計調査による本市の商店数、従業者数、年間商品販売額の推移は、次のとおりです。

平成19年の調査における商店数は平成11年に比べ135件(△18%)、従業員数は349人(△11%)の減少となっています。年間商品販売額は約231億円(△30%)減少し、商店数に比べ減少の幅が大きいことから、各商店の販売額が減少していることが推測されます。

年度	商店数(件)	従業者数(人)	年間商品販売額(万円)	その他の収入額(万円)
平成11	735	3,262	7,772,123	171,360
平成14	673	3,241	5,983,325	185,088
平成16	636	2,830	5,637,963	171,064
平成19	600	2,913	5,458,320	113,778
平成24	561	2,717	-	-

※ 平成21年商業統計調査は、平成24年経済センサス-活動調査の実施により中止となったため、平成24年の数値は、平成24年経済センサス活動調査速報値を掲載した。



【参考】卸売業の状況

年度	商店数(件)	従業者数(人)	年間商品販売額(万円)	その他の収入額(万円)
平成11	130	768	2,979,477	6,526
平成14	117	714	2,303,367	41,949
平成16	110	638	2,374,468	16,596
平成19	117	714	2,318,126	3,576

【参考】小売業の状況

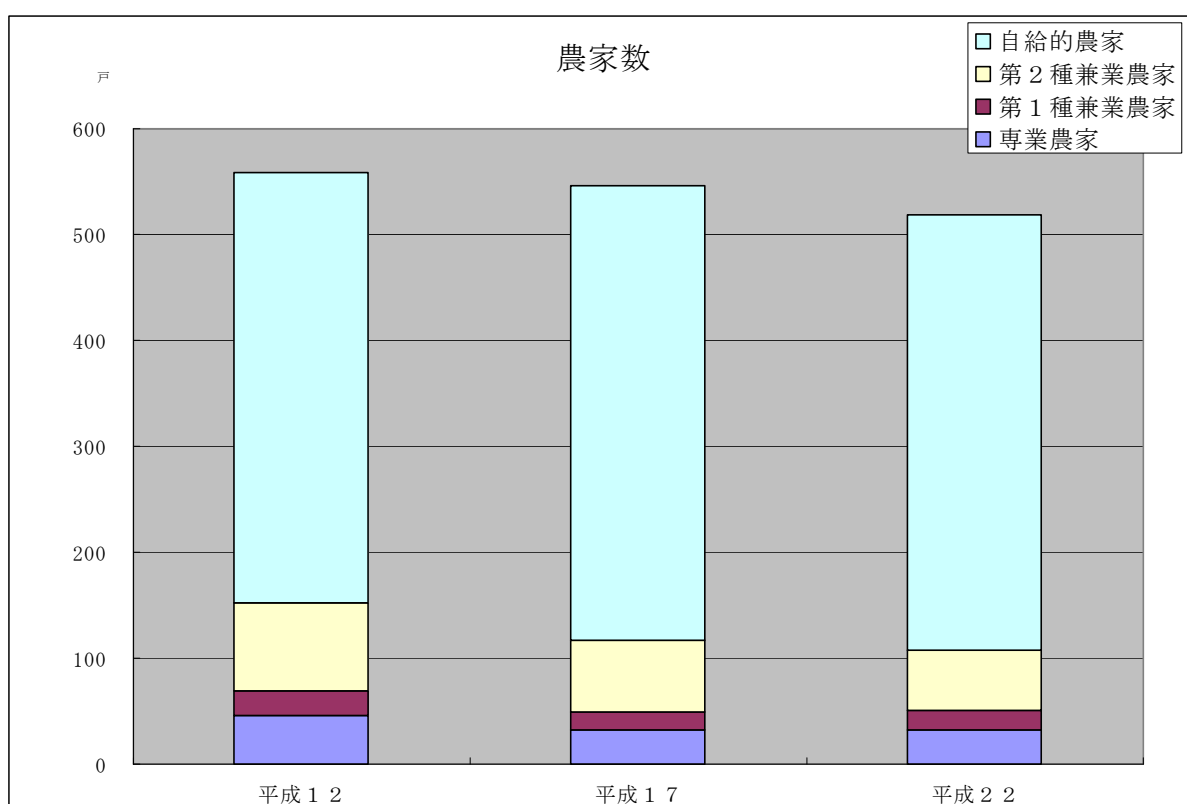
年度	商店数(件)	従業者数(人)	年間商品販売額(万円)	その他の収入額(万円)
平成11	595	2,494	4,792,646	164,834
平成14	556	2,527	3,679,958	143,139
平成16	513	2,128	3,263,495	154,468
平成19	483	2,199	3,140,194	110,202

## 4 農業の状況

農林業センサスによる平成22年の農家総数は、平成12年に比べ40戸（△7％）減少し、専業農家数は14戸（△30％）の減少、兼業農家数も32戸（△30％）減少しています。自給的農家数は6戸増加していることから、専業・兼業農家が自給的農家に移行する傾向であることが推測されます。

単位：戸

年度	専業農家	第1種兼業農家	第2種兼業農家	自給的農家	総数
平成12	46	24	83	405	558
平成17	33	16	68	429	546
平成22	32	19	56	411	518



- 注) ・農家とは、経営耕地面積が10 a 以上の農業を営む世帯、または1年間の農産物販売金額が15万円以上の世帯をいう。
- ・販売農家とは、経営耕地面積が30 a 以上または1年間の農産物販売金額が50万円以上の農家をいう。
    - 専業農家は、世帯員の中に兼業従事者が1人もいない販売農家をいう。
    - 兼業農家は、世帯員の中に兼業従事者が1人以上いる販売農家をいう。
    - 第1種兼業農家は、農業所得を主とする兼業農家をいう。
    - 第2種兼業農家は、農業所得を従とする兼業農家をいう。
  - ・自給的農家は、経営耕地面積が30 a 未満かつ1年間の農産物販売金額が50万円未満の農家をいう。

## 5 漁業の状況

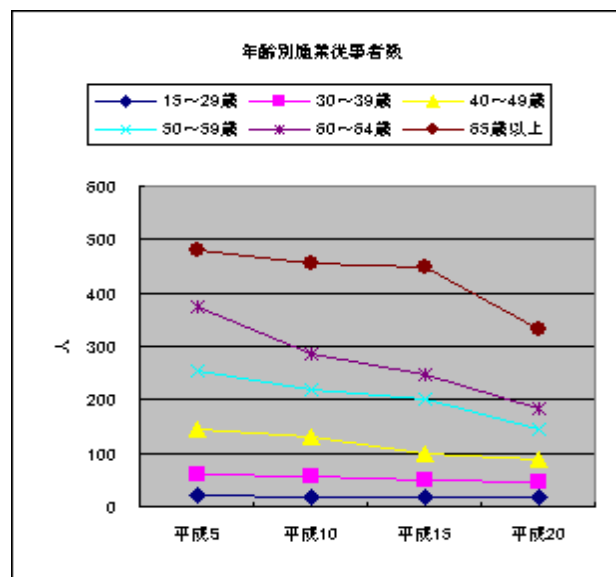
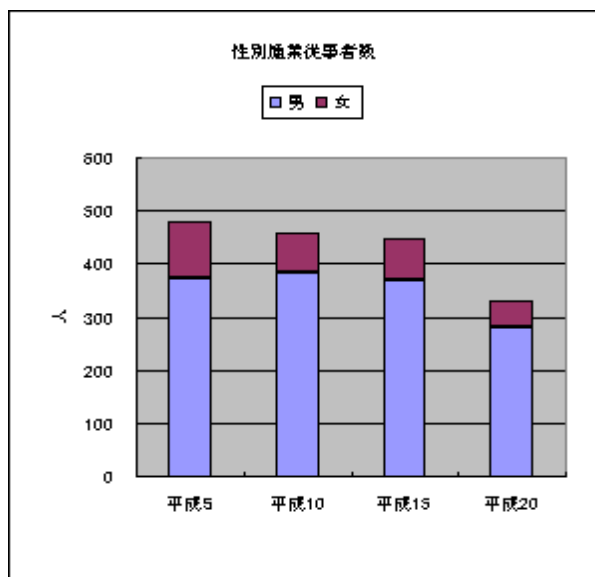
漁業センサスによる本市の漁業従事者数は、平成20年は平成5年に比べ149人（△31%）減少していますが、特に、平成15年から平成20年にかけては△116人（△26%）と大きく減少しています。男性従事者数は平成15年から平成20年にかけて△89人（△24%）と大きく減少しており、女性従事者数は平成5年から平成10年にかけて34人（△32%）、平成15年から平成20年にかけても△27人（△34%）と大きく減少しています。

年齢別では、平成15年の調査時点では総数の減少幅は小さく、65歳以上の従事者数は増加していることから高齢化が進んでいることが伺えます。平成20年の調査においては、50歳から59歳が大きく減少（△46人）、65歳以上も大きな減少（△51人）に転じていることから、平成16年以降は高齢化による従事者数の減少傾向が強まっています。

性別・年齢別の漁業従事者数の推移

単位：人

年	男	女	総数	15～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上
平成5	373	107	480	21	40	83	110	120	106
平成10	384	73	457	16	42	72	88	68	171
平成15	368	79	447	16	34	49	102	46	200
平成20	279	52	331	19	26	43	56	38	149



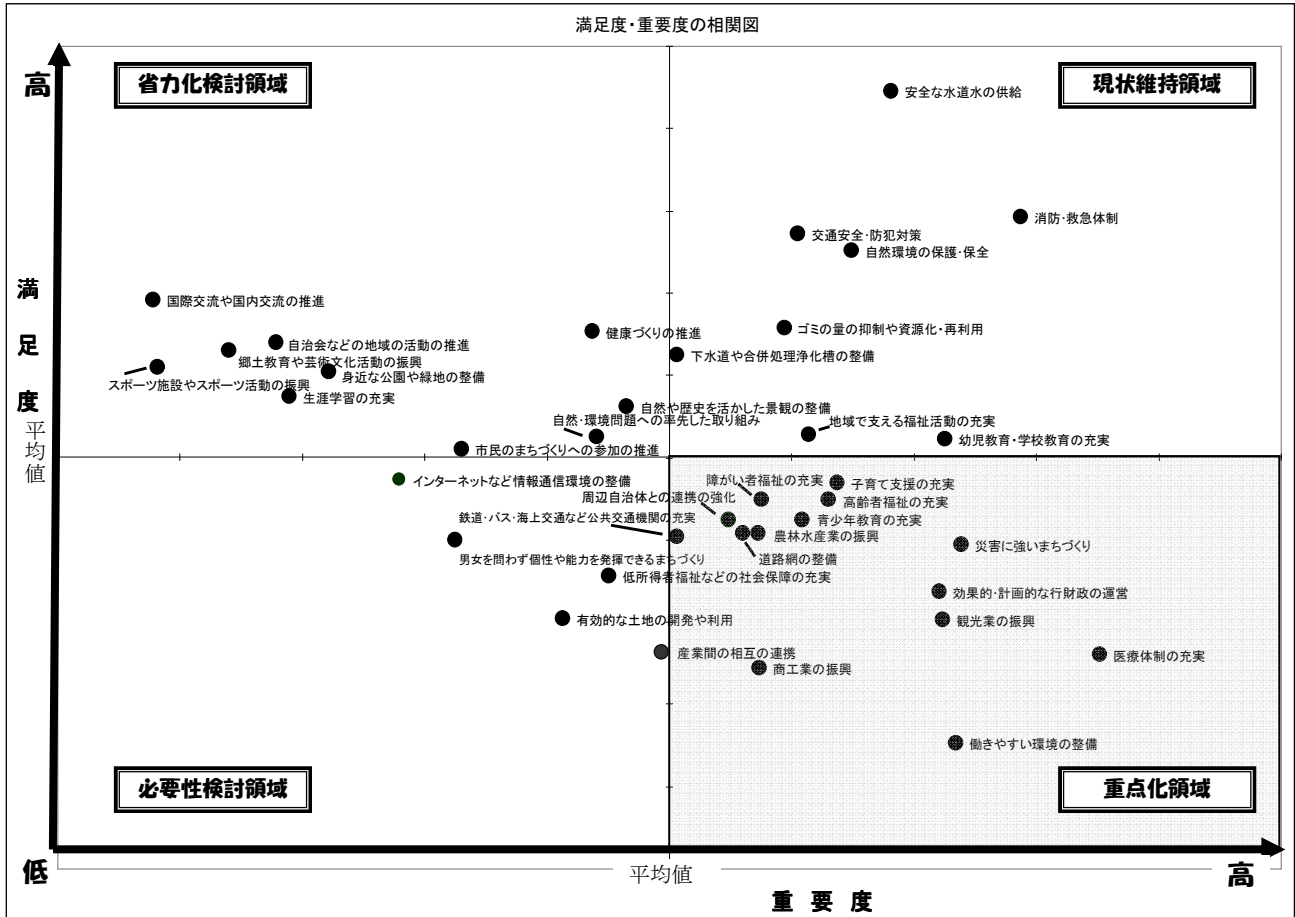
なお、漁業種類別経営体数は、経営体実数、網漁業（主に刺網）、釣は平成15年から平成20年にかけて大きく減少しており、採貝・採藻は、平成5年以降減少傾向にあります。

年	網漁業	釣		はえ縄	採貝藻	潜水	養殖	その他	実数	対比
		いか釣	他の釣							
平成5	180	39	199	4	243		3	10	291	
平成10	174	20	194	0	192		4	9	280	96.22%
平成15	150	13	230	0	108	24	7	29	259	92.50%
平成20	107	4	130	7	68	1	3	5	186	71.81%

注) 平成20年から採貝・採藻を項目統一

## 6 市民意識調査

第4次下田市総合計画の策定にあたり、平成21年10月から11月にかけて、無作為抽出による20歳以上の市民を対象にアンケート調査を実施しました。満足度と重要度についての調査結果は以下のとおりです。



満足度は、まちづくりに対する市民の評価と考えられるため、行政や市民などが協力して満足度をより高める努力をすることが求められます。一方、重要度は、市民の価値観であると考えられるため、まちづくりの方向性を検討する上において十分に配慮することが求められます。

相関図は、縦軸が「満足度」、横軸が「重要度」を表しており、37項目の平均値を基準にして大きく4つのタイプに分類しています。ここでいう「高い」「低い」は、他の項目に対し「相対的に高いか、低い」を意味しています。

『満足度が低く、重要度が高いもの(重点化領域)』に該当するものは、今後、市が最優先で取り組んでいく事業に位置づけられます。「医療体制の充実」「働きやすい環境の整備」「観光業の振興」「効果的・計画的な行財政の運営」「災害に強いまちづくり」「商工業の振興」などが該当します。

## 7 観光の現状分析

本市の観光の現状を把握し、課題を抽出するために、観光の「強み」「弱み」「機会」「脅威」を分析しました。アクションプランの策定においては、「強み」を強化し、「弱み」を克服し、「機会」を活かし、「脅威」を回避する施策を検討する必要があります。

	<b>強み (Strength)</b>	<b>弱み (Weakness)</b>
内 的 環 境	<ul style="list-style-type: none"> <li>○海               <ul style="list-style-type: none"> <li>・海水浴場、マリンスポーツ</li> <li>・伊豆七島との交流</li> <li>・豊富な海産物</li> </ul> </li> <li>○四季折々の花（水仙、あじさい、桜等）</li> <li>○美しい景観（海岸線、山並み、港等）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光施設 （水族館、ロープウェイ、遊覧船等）</li> </ul> </li> <li>○温泉</li> <li>○豊かな歴史的資源               <ul style="list-style-type: none"> <li>・開国・開港の歴史、史跡、史実                   <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ アメリカ、ロシアとの交流</li> <li>◇ 黒船祭</li> <li>➢ ボランティアガイド</li> </ul> </li> <li>・なまこ壁や伊豆石造りの民家</li> </ul> </li> <li>○イベント（黒船祭、あじさい祭り等）</li> <li>○伊豆急行の発着駅</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人口減少               <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材不足</li> <li>・働く場所が少ない → 労働力の流出</li> <li>・少子高齢化</li> </ul> </li> <li>○自然災害に弱い、天候に左右される               <ul style="list-style-type: none"> <li>・雨天時の施設（建物）がない</li> </ul> </li> <li>○施設、道路等の整備が遅れている               <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通アクセスが悪い（単線による渋滞）</li> <li>・中心市街地の歩道整備、バリアフリー対策がされていない</li> <li>・景観の整備がされていない（廃業したホテル等が放置されている）</li> <li>・地図、案内表示（外国語表記）等の整備がされていない</li> <li>・観光施設の老朽化</li> </ul> </li> <li>○注目を浴びるような観光資源がない （観光施設、特産品等）</li> <li>○行政、機関、団体等の連携、交流が弱い</li> <li>○財政力が弱い               <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な観光施策の実施が困難</li> </ul> </li> <li>○情報発信の不足、マンネリ化               <ul style="list-style-type: none"> <li>・断片的な情報が多数で、魅力が十分に伝わらない</li> <li>・海のリゾート＝海水浴</li> </ul> </li> <li>○インバウンドをうまく活かせていない</li> <li>○商店街の衰退</li> </ul>
	<b>機 会 (Opportunity)</b>	<b>脅 威 (Threat)</b>
外 的 環 境	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史的価値の認識の高まり （幕末歴史の一場面を演じた認識度は高い）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史（人物）に興味を持つ女性の増加</li> </ul> </li> <li>○自然への認識の高まり               <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然体験（フラワーウォーキング等の共通イベントの開催）への関心の高まり</li> <li>・花のイベント時（河津桜まつり、あじさい祭、水仙まつり）の入込者数の増加</li> </ul> </li> <li>○自分の趣味（アイドル、アニメ、ゲーム等）のためにお金を使う大人の増加</li> <li>○観光地からリゾート地へ</li> <li>○団体旅行からマニアックな個人旅行（量より質）</li> <li>○HPでの観光PR、ネット販売</li> <li>○伊豆縦貫自動車道の整備</li> <li>○行政等の広域での活動（ジオパーク構想、観光圏、グリーンツーリズム等）</li> <li>○いなか暮らしへの注目 → Iターン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大型地震のイメージによる悪影響（海への警戒心）</li> <li>○脆弱な交通基盤（高速道路がない）               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 伊豆の渋滞のイメージ</li> </ul> </li> <li>○伊豆急行の料金割高、単線、少ない運行本数</li> <li>○大型店舗の進出</li> <li>○全国各地の観光地化               <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊豆ブランドの低下 → 伊豆離れ</li> </ul> </li> <li>○海外、国内観光地との競合による宿泊客の減少               <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行スタイルの変化 （団体旅行の減少、民宿利用の減少等）</li> <li>・日帰り温泉が増えた等 → 温泉地の低迷</li> <li>・夏の繁忙期等の宿泊料金の高いイメージが浸透</li> </ul> </li> <li>○経済不況、景気低迷</li> </ul>

注) 下田市観光振興推進会議の分析結果による。

## 8 観光の主要な課題

本計画の策定にあたり、入込客数の推移、産業分類別就業人口の推移、商業・農業・漁業の状況、市民の意識調査の結果による市民ニーズや観光の現状分析などを踏まえ、観光の主要な課題を整理します。

### (1) 入込客数の減少

観光地としての知名度は高いものの、景気の低迷による消費動向の変化や国内外に及ぶ総観光地化の波などにより、入込客数は減少傾向にあります。特に、平成21年度と平成23年度に入込客数は大きく減少しており、ピーク時の半分以下となっています。金融危機や東日本大震災の影響はあるものの、全国的に人気の高い温泉地に比べ、伊豆全体のブランド力の低下が懸念されます。

また、旅行者の行動圏域は、高速交通網の整備や格安航空券等により拡大傾向にあるため、地域間の競争はますます厳しさを増していくことから、新たな観光誘客への取組が求められています。

### (2) 産業就業人口の減少

本市の人口は昭和51年をピークに減少傾向が続いており、少子高齢化はますます進行しています。この傾向は今後も続くと推測されることから、産業就業人口の減少に伴う地域活力の低下が懸念されます。

農林水産業は、就業者の高齢化や深刻化する後継者不足により生産基盤が弱まっているため、担い手の育成や地場産品のブランド化など、地域の特性を活かした取組が求められています。

また、農産物を鳥獣被害から守るため、人も生き物も共生できる森林整備や里山づくりなどの抜本的対策が求められています。

商工業は、消費者ニーズの多様化や後継者不足を背景とした商店の減少により、中心市街地の活力が弱まっているため、関係機関と連携し、活性化に向けた施策を計画的に実施する必要があります。

### (3) 恵まれた自然や歴史の活用

価値観やニーズの多様化に伴い、旅行スタイルも個々のニーズに合わせた「参加・体験型」観光へと移行しつつあり、下田の独自の自然や歴史を活かした観光ソフトの一層の開発や普及が求められています。

また、本市にとってかけがえのない河川、海岸や海洋の環境を汚すことなく次世代に引き継ぐため、豊かな自然環境を守り、後世に伝えていくとともに、これらの自然環境を本市の魅力と捉え活用していくことが求められています。



#### (4) 地域が一体となったまちづくりの推進

市民意識調査では、「働きやすい環境の整備」「観光業の振興」の重要度は高く、満足度は低い項目として挙げられています。また、「商工業の振興」の満足度も低くなっており、産業の活性化は、市民の就業の場や暮らしにおいても重要な課題です。

今後は、行政や事業者、市民などの多様な主体が相互に連携するとともに、産業間での連携を深め、魅力溢れる個性的なまちづくりを市民総意のもとに推進し、まち全体の活力を向上させていく必要があります。

#### (5) 施設や道路整備等の推進

市の管理する観光施設は、老朽化が著しい施設の管理方法の見直しや計画的な改修・整備が求められるとともに、観光案内標識の整備や多言語化・ピクトグラム化などの景観に配慮した観光サインの統一化が求められています。

また、緊急医療機関へのアクセスの向上や災害時の安全確保はもちろんのこと、産業経済の活性化を図り、地域的交流や地域連携の強化促進を発展させるためにも極めて重要な役割を担う伊豆縦貫自動車道の開通を念頭に置くとともに、下田港の活用や地域の実情に合った交通体系への配慮が求められています。

#### (6) 安心できるまちづくりの推進

南海トラフの巨大地震による津波高・浸水域・被害想定が公表され、本市においては大変厳しい状況が示されました。今後予想される自然災害への対策を強化し、市民や訪れる人の安全を守り、安心して暮らし、訪れることのできるまちづくりが求められています。

#### (7) 統計データの分析

観光や農林水産業の課題を整理し、効果的な施策を検討するためには、各種統計データを収集し分析する必要があります。客観的に統計データを分析し、観光や農林水産業の現状を正確に把握した上でアクションプランを策定することが求められています。

#### (8) 計画的なまちづくりの推進

右肩上がりの経済に支えられた社会は終焉を迎え、予算の確保や人員の確保も困難な状況となっています。さまざまな課題を解決するためには、限られた人的・財政的資源を効果的な事業に集中するとともに、中長期的視点で計画的に施策を実施することが求められています。

また、国や県の動向を注視し、積極的に補助制度を活用するとともに、周辺市町との連携などを通じ、より大きな事業効果を生み出すことが求められています。

## 第3章 基本理念と計画の目指すところ

### 1 基本理念、将来都市像

いままでの観光業とは、宿泊、飲食、販売、交通といった観光の中核を担う業種を指してきました。これからの観光業には、この地で醸成されたあらゆる産業や活動、そして生活そのものを人びとの交流を担う資源として位置づける必要があります。下田にとって観光とは、農林水産業、商業、製造業に至るすべての地域産業の魅力づくりであり、まちづくりそのものであることから、第4次下田市総合計画に掲げられたまちづくりの基本理念と将来都市像を本計画においても継承するものとします。

**(基本理念)** 「下田を愛する、市民を始めとする幅広い人の参加により、  
本市の持つ自然や歴史、文化を活用し、  
市民一人ひとりが誇りを持って暮らすことのできるまちづくり」  
**(将来都市像)** 自然と歴史を活かし、やすらぎと活力のある美しいまち

### 2 計画の目指すところ

基本理念を踏まえ、将来都市像を具体化するために、本計画の目指すところを以下に示します。

**暮らす人も、訪れる人も快適なまち「快国」下田**

観光を柱とした下田のまちづくりは、下田のまち全体を元気にするためのものです。

観光客は非日常を求めています。それは下田市民の日常ですから、下田市民の日常が豊かでなければ、観光客が満足することはできません。

市民の日々の営みが価値ある交流を産み、**新しい次元**でこのまちの豊かさを実感できる観光まちづくりを推進し、「暮らす人も、訪れる人も快適なまち『快国』下田」の実現を目指します。

### 3 基本方針

観光まちづくりを実践するためには、第一に、まちや地域の特色や個性を認識し、第二に、その魅力を市民総ぐるみで磨き、第三に、その魅力を発信するという一連の行動をまち全体で実践していくことが必要となります。また、一連の行動を実践する過程においては、産業就業人口の減少や高齢化などの現実を真摯に受け止めるとともに、それらの社会的要因を克服し、より多くの市民が元気を取り戻すための施策を展開する必要があります。

そこで、「暮らす人も、訪れる人も快適なまち『快国』下田」を実践するための基本的な方針を以下に示します。

## 方針1 下田らしい観光まちづくりを実践します。

### (1) 地域の特徴を活かした魅力ある観光まちづくりを進めます。

本市には豊かな自然が残され、市民の生活や経済的基盤を支えるとともに、訪れる人への大きな魅力にもなっています。この貴重な財産や下田まち遺産を将来に継承するとともに、人と自然が共生できる豊かな自然や美しい景観などを活かしたまちづくりを進めます。

また、本市は古来より海とのつながりの中で特色ある歴史や文化があり、特に幕末のペリー来航による日本開国の歴史の表舞台として国内外に知られています。これらの貴重な歴史的資源を守るとともに、市民や訪れる人が歴史や文化に親しみ、下田への誇りと愛着を持つことのできるまちづくりを進めます。

### (2) 新たな魅力の創出によるまちの活性化を図ります

商店街や農漁村集落などの特色ある暮らしや文化・芸術などを観光資源として活用し、新たな魅力の創出に努めるとともに、水仙まつりやあじさい祭などの既存のイベントのリニューアルや新しいイベントの構築を行い、まちの活性化を図ります。

また、参加型の体験プログラムや着地型旅行商品の開発を促進し、市民や訪れる人が下田の魅力を楽しめるまちづくりを進めます。

### (3) 外国人旅行者の誘致を進めます。

外国人旅行者が安心して快適に、移動・滞在・観光することができる環境を整備し、外国人旅行者の訪問を促進するとともに、満足度を高め、外国人旅行者が何度でも訪れたくなる、やさしいまちづくりを進めます。

また、下田の美しい海や町並みは、在日外国人から親しまれていることから、リゾート地としての魅力を磨くとともに、スポット型観光から滞在交流型観光への転換を進めます。

## 方針2 すべての市民が連携して観光まちづくりを進めます。

### (1) 地域や各種産業が連携し、観光まちづくりを進めます。

下田らしい観光まちづくりを実践するためには、地域や各種産業そしてすべての市民が連携し、下田らしさにこだわる本物志向のまちづくりを推進する必要があります。

そのため、観光事業者、交通事業者、生産者や商業・まちづくり関係者などとの従来の枠にとらわれないネットワークを築き、すべての市民が連携して観光まちづくりを進めます。

(2) おもてなしの心を育み、市民と観光客の交流を進めます。

最高のおもてなしを実現するためには、観光客に下田の本当の魅力や価値を伝える必要があります。すべての市民や事業者が下田の魅力を知るとともに、下田で暮らし、営むことに誇りを持ち、観光客との交流ができるまちづくりを目指し、市民のおもてなしの心を育みます。

(3) 誰もが安全で快適に楽しめる観光空間を整備します。

市民の身近な生活環境や市民生活の安全性の確保は、観光客の快適で安全な観光空間と密接に関連しています。市民が健やかに安心して暮らし、訪れる人も安全で快適に楽しめる観光空間を整備します。

### **方針3 まちのブランド化を進め、情報発信機能を強化します。**

(1) まちのブランド化を進めます。

下田の持つ多様な自然や暮らし、歴史、文化、産品等の資源を磨き、他地域とは差別化された価値的優位を確立するとともに、観光客に期待以上の価値を持続的に提供することにより、まち全体のブランドイメージを確立します。

(2) まち全体のブランドイメージを積極的に発信します。

まち全体のブランドイメージを確立するため、様々な媒体を通じ、各種イベントやまちの魅力を積極的に発信します。

また、ツイッターやフェイスブックに代表されるソーシャルメディアは、重要な情報伝達のひとつとなっており、今後も広がりが期待できます。ソーシャルメディアは、手軽に広範かつ瞬時に情報が伝わる優れた特性がある一方でリスク対策も必要なことから、その特性を調査研究し、効果的で有効な活用方法を検討します。

(3) 広域組織等と連携し積極的に情報を発信します。

金融危機や東日本大震災の影響はあるものの、全国的に人気の高い温泉地に比べ、伊豆全体のブランドイメージの低下が懸念されます。

伊豆全体のブランドイメージを確立し、周遊性を高めるため、伊豆地域の多様な魅力を周辺市町と連携し発信します。

## 第4章 アクションプラン

### 1 提案事業

第3章で掲げた基本理念と将来都市像を踏まえ、「暮らす人も、訪れる人も快適なまち『快国』下田」を実践するための基本方針に沿ってアクションプランを提案します。

#### 方針1 下田らしい観光まちづくりを実践します。

1-(1) 地域の特色を活かした魅力ある観光まちづくりを進めます。

項 目	取 り 組 み 内 容
豊かな自然を活かす	快適で安全な海水浴場を開設します。
	マリンスポーツを推進するとともに、各種大会の誘致に努めます。
	年間を通じた多様な海の魅力を磨き、活用します。
	自然体験プログラムを一元化し、下田独自のメニューを提供します
	豊富な海産物を活用し、下田ブランドを確立します。
	豊富で多様な温泉を活用します。
	放置竹林、荒廃森林対策を行い、豊かな自然を継承します。
美しい景観を活かす	海岸線、山並みなどの美しい自然景観を守り、活用します。
	なまこ壁や伊豆石造りの町並み景観を守り、活用します。
	耕作放棄地を解消し、里山の景観を保全します。
	下田まち遺産を守り、活用します。
	美しい景観を広報し、ロケ等の誘致を推進します。
	市民、事業者、各種団体と協働して花の名所をつくとともに、花いっぱい運動やゴミ拾い運動を推進します。
歴史文化的資源を活かす	開港の歴史、史跡、史実を活かし、開国のまちづくりを推進します。
	アメリカ・ロシアとの交流を推進します。
	ボランティアガイド協会と連携し、後継者を育成します。
	下田太鼓祭り河内手筒花火や芸妓文化などの下田独自の伝統文化を継承し、下田の魅力として発信します。

豊富な食材を活かす	金目鯛のブランド化を推進します。
	地場産品を活用した特産品の開発を推進します。
	地場産品の地産地消を推進するとともに、交流都市等を通じた物産交流を推進します。
着地型・周遊観光を実践する	下田を快適に楽しく過ごすための観光スタイルを提案した30カラーズを活用し、着地型商品を開発します。
	伊豆地域の連携を強化し、効果的な情報発信を推進します。
	周辺市町と連携し、周遊型観光を推進します。
	伊豆半島ジオパーク推進協議会の一員として事務局と連携し、世界ジオパーク認定に必要な事業を推進します。

1-(2) 新たな魅力の創出によるまちの活性化を図ります。

項目	取り組み内容
観光スポットを見直す	30カラーズを充実し、新たな観光スポットを提案します。
イベントを見直す	水仙まつり、あじさい祭等の既存のイベントを評価・検証し、魅力的なイベントにリニューアルします。
参加体験観光を促進する	下田市自然体験活動推進協議会を再編成し、体験メニューを充実します。
	下田市教育旅行協議会と連携し、教育旅行を積極的に誘致します。

1-(3) 外国人旅行者の誘致を進めます。

項目	取り組み内容
外国人旅行者の受入環境を整備する	看板・案内等の多言語化を推進するとともに、外国人旅行者受入団体等への外国語研修等を開催します。
	スポット型観光から参加体験型観光に転換します。
外国人旅行者の誘致を進める	国、県、広域組織と連携し、誘致活動を促進します。

**方針2 すべての市民が連携して観光まちづくりを進めます。**

2-(1) 地域や各種産業が連携し、観光まちづくりを進めます。

項目	取り組み内容
地域全体で観光まちづくりを推進する	既存の枠にとらわれない実行力のある組織・体制を設置します。

2-(2) おもてなしの心を育み、市民と観光客の交流を進めます。

項 目	取 り 組 み 内 容
おもてなしの心を育む	観光交流課が実施する「おもてなしプログラム」を積極的に活用し、市民のおもてなしの心を育みます。
	30 カラースを活用したモニターツアー、タクシーツアーを実施し、市民や観光客に下田の魅力や価値を伝えます。
	教育委員会や学校と連携し、子供たちを対象に、おもてなしプログラムを活用した郷土教育を推進します。

2-(3) 誰もが安全で快適に楽しめる観光空間を整備します。

項 目	取 り 組 み 内 容
歩行者空間を整備する	中心市街地の快適な歩行者空間や案内看板を整備します。
観光施設を改善、充実する	観光施設を定期的に巡回し、適正な管理を行います。
	老朽化した観光施設の整備計画を策定し、計画的な改修を行います。
	あじさい園、水仙園等の整備、管理を充実します。
	観光施設等のユニバーサルデザイン化を推進します。
自然災害への対策を強化する	津波浸水域での体験活動の安全対策を強化します。
	海水浴場開設時の避難・誘導対策を強化します。
	津波浸水域における避難誘導表示を整備します。

**方針3 まちのブランド化を進め、情報発信機能を強化します。**

3-(1) まちのブランド化を進めます。

項 目	取 り 組 み 内 容
まちのブランド化を進める	30 カラースの内容を充実します。
	国際的イベントを誘致します。
	各施策の実施内容を質の高い事業に改善します。
	リゾート地としての雰囲気作りを推進します。

3-(2) まち全体のブランドイメージを積極的に発信します。

項 目	取 り 組 み 内 容
ブランドイメージを発信する	ロケ誘致、取材協力を積極的に行います。
	ホームページをリニューアルします。
	質の高いパンフレットやチラシを作成します。
	旅行会社等と連携し、着地型商品を開発します。
	特産品の販売促進イベント等に参加します。
	ソーシャルメディアの活用を検討します。
	下田在住経験者等への情報提供を通じ、下田ファンを育成します。

3-(3) 広域組織等と連携し積極的に情報を発信します。

項 目	取 り 組 み 内 容
広域組織等と連携し、情報を発信する	広域組織の一員として国外での観光展に参加します。
	伊豆地域の市町と連携し、伊豆誘客共同キャンペーンに参加します。
	伊豆誘客共同パンフレットやチラシを作成します。
	市外団体等の持ち込み企画を誘致します。
	国、県の動向を注視し、補助金等を積極的に活用します。

## 2 提案プロジェクト

提案事業で掲げた内容は、観光を振興する上で必要な事項ですが、すべてを同時期に行うことは困難な状況です。本計画では、計画内容の実現性を強く求められていることから、下田らしい観光まちづくりを実践するために、優先して実施すべき事業をプロジェクトとしてまとめることとしました。

プロジェクトの策定にあたり、本市の豊かな自然は、市民の営みを支えるとともに、訪れる人の大きな魅力にもなっていることから、「美しい里山づくり」、「世界一の海づくり」「美味しいまちづくり」としてまとめました。また、本市の多様な魅力を掘り起こすとともに、効果的な情報発信を担うプロジェクトとして「30カラース」を位置づけました。

なお、中心市街地は食の魅力や地場産品を発信する拠点となるため、各プロジェクトと密接に連携するとともに、各プロジェクトが連携して本市の固有の歴史、文化や町並みなどの多様な魅力を発信し、まち全体のブランドイメージを創出する必要があります。



(1) 美しい里山づくりプロジェクト（事前協議調書）

現 状 課 題	農林業は、就業者の高齢化や後継者不足等により耕作放棄地が拡大するとともに、森林や竹林の荒廃による鳥獣被害が増加しており、抜本的対策が求められている。																																																												
目 的	本市の豊かな自然は、市民の生活や経済的基盤を支えるとともに、訪れる人の大きな魅力にもなっているため、豊かな自然を将来に継承し、人々の営みと自然が共生できるまちづくりを推進することを目的とする。																																																												
事業概要 予 算	<p>1 鳥獣対策事業（事業費46,260千円 収入見込11,400千円）</p> <p>1) 放置竹林対策（3年継続 H26～H28 事業費27,630千円 収入見込6,900千円）</p> <p>○竹林伐採（3名雇用、機材・燃料費等）</p> <table border="1" data-bbox="363 745 1461 1019"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>積 算 内 容</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人件費</td> <td>月25日、3名、@7,840円（H25は10月～） 交通費、ボーナス、各種保険等含@10,000円</td> <td></td> <td>9,000</td> <td>9,000</td> <td>9,000</td> </tr> <tr> <td>機材費</td> <td>年間 30,000 円×3名</td> <td></td> <td>90</td> <td>90</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>燃料費</td> <td>月10,000円</td> <td></td> <td>120</td> <td>120</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業費計</td> <td></td> <td>9,210</td> <td>9,210</td> <td>9,210</td> </tr> </tbody> </table> <p>※収入 受益者負担金 @7,840円×1/2×200日×3名≒2,300,000円（26年度以降）</p> <p>2) 荒廃森林対策（3年継続 H26～H28 事業費18,630千円 収入見込4,500千円）</p> <p>○間伐、除伐、枝打、下草処理（2名雇用、機材・燃料費等）</p> <table border="1" data-bbox="363 1220 1461 1494"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>積 算 内 容</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人件費</td> <td>月25日、2名、@7,840円 交通費、ボーナス、各種保険等含@10,000円</td> <td></td> <td>6,000</td> <td>6,000</td> <td>6,000</td> </tr> <tr> <td>機材費</td> <td>年間 30,000 円×3名</td> <td></td> <td>90</td> <td>90</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>燃料費</td> <td>月10,000円</td> <td></td> <td>120</td> <td>120</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td colspan="2">支出計</td> <td></td> <td>6,210</td> <td>6,210</td> <td>6,210</td> </tr> </tbody> </table> <p>※収入 受益者負担金 @7,840円×1/2×200日×2名≒1,500,000円（26年度以降）</p> <p>2 担い手育成事業（鳥獣対策事業収入見込額11,400千円内で事業執行）</p> <p>1) 耕作放棄地解消対策（多品種少量型の活用、元気な高齢者の参加）</p> <p>○平成25年度 ・耕作放棄地活用を検討（JA伊豆太陽、商店会連盟、花の会、観光協会、行政等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産物、生産者の決定（あじさい、水仙、腐葉土、葉、農作物等）</li> </ul> <p>○平成26年度～・委託生産（農家）・・・開墾助成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発注者に販売</li> </ul> <p>※美しく品格のある邑 選定地区の事業推進も視野に入れる必要がある。</p>	区 分	積 算 内 容	25年度	26年度	27年度	28年度	人件費	月25日、3名、@7,840円（H25は10月～） 交通費、ボーナス、各種保険等含@10,000円		9,000	9,000	9,000	機材費	年間 30,000 円×3名		90	90	90	燃料費	月10,000円		120	120	120	事業費計			9,210	9,210	9,210	区 分	積 算 内 容	25年度	26年度	27年度	28年度	人件費	月25日、2名、@7,840円 交通費、ボーナス、各種保険等含@10,000円		6,000	6,000	6,000	機材費	年間 30,000 円×3名		90	90	90	燃料費	月10,000円		120	120	120	支出計			6,210	6,210	6,210
区 分	積 算 内 容	25年度	26年度	27年度	28年度																																																								
人件費	月25日、3名、@7,840円（H25は10月～） 交通費、ボーナス、各種保険等含@10,000円		9,000	9,000	9,000																																																								
機材費	年間 30,000 円×3名		90	90	90																																																								
燃料費	月10,000円		120	120	120																																																								
事業費計			9,210	9,210	9,210																																																								
区 分	積 算 内 容	25年度	26年度	27年度	28年度																																																								
人件費	月25日、2名、@7,840円 交通費、ボーナス、各種保険等含@10,000円		6,000	6,000	6,000																																																								
機材費	年間 30,000 円×3名		90	90	90																																																								
燃料費	月10,000円		120	120	120																																																								
支出計			6,210	6,210	6,210																																																								

	<p>2) 副産物活用事業</p> <p>○平成25年度 ・竹材、木材等の副産物活用検討  (森林組合、JA伊豆太陽、商店会連盟、花の会、観光協会、事業者、行政等)</p> <p>・加工品、加工業者の決定  (炭、ベンチ、テーブル、たけのこ、竹飾り、竹灯籠、竹細工、料理等)</p> <p>○平成26年度～・加工、販売 (必要に応じて機器導入を補助)</p> <p>3) 里山整備推進事業</p> <p>○平成26年度～・竹林伐採箇所の活用、継続的整備の検討</p> <p>・モデル地区の選定、整備内容の協議</p> <p>3 連携推進事業</p> <p>1) 美しい里山モデル地区整備事業</p> <p>○平成27年度～・整備事業の実施</p>
事業費	46,260千円 (美しい里山モデル地区整備事業は除く)
実施期間	平成25年4月～平成28年3月
その他	美味しいまちづくりプロジェクトと連携し、下田わさび等のブランド化を推進する。
実施体制	<p style="text-align: center;"><b>下田市観光まちづくり推進本部</b>  下田市長、観光協会長、商工会議所会頭  伊豆漁協組合長、JA伊豆太陽組合長  事務局 (下田市観光交流課)</p> <p style="text-align: center;"><b>下田市観光まちづくり連携推進幹事会</b>  観光協会、商工会議所、伊豆漁協、JA伊豆太陽  下田市 (産業振興課、観光交流課)</p> <p style="text-align: right;"><b>参画団体</b>  ・商店会連盟  ・旅館組合  ・料理飲食店組合  ・花の会  ・他</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;"><b>鳥獣対策事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集落 (区、農林業)</li> <li>・森林組合</li> <li>・JA伊豆太陽</li> <li>・有害鳥獣対策協議会</li> <li>・下田市 (産業振興課)</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;"><b>担い手育成事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集落 (区、農家)</li> <li>・森林組合</li> <li>・JA伊豆太陽</li> <li>・製材業者</li> <li>・民間事業者 (公募)</li> <li>・農業再生協議会</li> <li>・下田市 (産業振興課)</li> </ul> </div> </div>



(2) 世界一の海づくりプロジェクト（事前協議調書）

現 状 課 題	<p>価値観やニーズの多様化に伴い「参加・体験型」観光に移行しつつあり、下田の多様な魅力を活かした観光ソフトの開発や普及が求められている。特に、本市の大きな魅力である海が、十分に活用されていない。</p>																		
目 的	<p>本市の豊かな自然は、市民の生活や経済的基盤を支えるとともに、訪れる人の大きな魅力にもなっているため、豊かな自然を将来に継承し、人々の営みと自然が共生できるまちづくりを推進することを目的とする。</p>																		
事業概要 予 算	<p>1 連携強化推進事業</p> <p>1) 自然体験活動推進協議会の再編成</p> <p>○平成25年度 ・市内体験事業実施団体による協議会の再編成</p> <p style="padding-left: 40px;">海、山などの自然体験、その他参加、体験事業実施者</p> <p>2) 体験活動情報発信の一元化</p> <p>○平成25年度～・ホームページ、パンフレット等による情報発信</p> <p>2 人材育成事業（ジオパークと関連した人材育成、元気な高齢者の参加促進）</p> <p>○平成26年度～・体験事業コーディネーターの育成</p> <p style="padding-left: 40px;">・危機管理講習会の実施</p> <p style="padding-left: 40px;">・体験ツアー、モニターツアー等の実施</p> <p>○平成27年度～・広報宣伝、予約システム等の窓口一元化（体験事業コーディネート事業）</p> <p>3 体験活動環境整備事業</p> <p>○平成28年度～・海を1年中楽しむことのできる環境整備（モデル地区の設定）</p> <p>4 概算事業費</p> <table border="1" data-bbox="328 1525 1428 1865"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>事業内容</th> <th>事業費（千円）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25年度</td> <td>自然体験活動推進協議会の再編成 体験活動情報発信の一元化（ホームページ整備）</td> <td>1,500</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>体験事業コーディネーターの育成 危機管理講習会、体験ツアー、モニターツアー等の実施</td> <td>1,500</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>広報宣伝、予約システム等の窓口一元化</td> <td>1,500</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>環境整備事業（観光施設整備事業補助金活用予定）</td> <td>未定</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">事業費計</td> <td>4,500</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 平成25年度は、下田市自然体験活動推進協議会500千円、交流定住促進助成1,000千円で事業実施予定。</p>	年度	事業内容	事業費（千円）	25年度	自然体験活動推進協議会の再編成 体験活動情報発信の一元化（ホームページ整備）	1,500	26年度	体験事業コーディネーターの育成 危機管理講習会、体験ツアー、モニターツアー等の実施	1,500	27年度	広報宣伝、予約システム等の窓口一元化	1,500	28年度	環境整備事業（観光施設整備事業補助金活用予定）	未定	事業費計		4,500
年度	事業内容	事業費（千円）																	
25年度	自然体験活動推進協議会の再編成 体験活動情報発信の一元化（ホームページ整備）	1,500																	
26年度	体験事業コーディネーターの育成 危機管理講習会、体験ツアー、モニターツアー等の実施	1,500																	
27年度	広報宣伝、予約システム等の窓口一元化	1,500																	
28年度	環境整備事業（観光施設整備事業補助金活用予定）	未定																	
事業費計		4,500																	

事業費	4, 500千円（環境整備事業は除く）						
実施期間	平成25年4月～平成28年3月						
その他	海の通年活用については、漁業関係者との連携を密接にして実施する。						
実施体制	<div style="text-align: center;"> <p><b>下田市観光まちづくり推進本部</b>            下田市長、観光協会長、商工会議所会頭            伊豆漁協組合長、J A伊豆太陽組合長            事務局（下田市観光交流課）</p> <p>⇕</p> <p><b>下田市観光まちづくり連携推進幹事会</b>            観光協会、商工会議所、伊豆漁協、J A伊豆太陽            下田市（産業振興課、観光交流課）</p> <p>⇕</p> <p><b>自然体験活動推進協議会</b>（事務局：観光交流課）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">海</th> <th style="width: 33%;">山</th> <th style="width: 33%;">ものづくり他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウミホテル観察</li> <li>・磯の生き物観察</li> <li>・ダイビング</li> <li>・サーフィン</li> <li>・シーカヤック</li> <li>・スノーケリング</li> <li>・ルネックウォーキング</li> <li>・ビーチヨガ</li> <li>・海釣り</li> <li>・船釣り</li> <li>・サンドスキー</li> <li>・パラグライダー</li> <li>・ドルフィン体験</li> <li>・下田魚市場見学</li> <li>・海岸学</li> </ul> <p>※教育旅行協議会</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗馬</li> <li>・ツリークライミング</li> <li>・マウンテンバイク</li> <li>・里山遊び</li> <li>・調理体験（ポーレポーレ） もちつき、石釜ピザ まんじゅう、味噌 そば、こんにやく うどん、かまどご飯</li> <li>・柿、みかん狩</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陶芸</li> <li>・ちりめん細工</li> <li>・シークラフト作り</li> <li>・海藻押し葉</li> <li>・ハンプリングアート</li> <li>・ひもの開き</li> <li>・ボランティアガイドツアー</li> </ul> <p>※空店舗の活用</p> </td> </tr> </tbody> </table> </div>	海	山	ものづくり他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウミホテル観察</li> <li>・磯の生き物観察</li> <li>・ダイビング</li> <li>・サーフィン</li> <li>・シーカヤック</li> <li>・スノーケリング</li> <li>・ルネックウォーキング</li> <li>・ビーチヨガ</li> <li>・海釣り</li> <li>・船釣り</li> <li>・サンドスキー</li> <li>・パラグライダー</li> <li>・ドルフィン体験</li> <li>・下田魚市場見学</li> <li>・海岸学</li> </ul> <p>※教育旅行協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗馬</li> <li>・ツリークライミング</li> <li>・マウンテンバイク</li> <li>・里山遊び</li> <li>・調理体験（ポーレポーレ） もちつき、石釜ピザ まんじゅう、味噌 そば、こんにやく うどん、かまどご飯</li> <li>・柿、みかん狩</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陶芸</li> <li>・ちりめん細工</li> <li>・シークラフト作り</li> <li>・海藻押し葉</li> <li>・ハンプリングアート</li> <li>・ひもの開き</li> <li>・ボランティアガイドツアー</li> </ul> <p>※空店舗の活用</p>
	海	山	ものづくり他				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウミホテル観察</li> <li>・磯の生き物観察</li> <li>・ダイビング</li> <li>・サーフィン</li> <li>・シーカヤック</li> <li>・スノーケリング</li> <li>・ルネックウォーキング</li> <li>・ビーチヨガ</li> <li>・海釣り</li> <li>・船釣り</li> <li>・サンドスキー</li> <li>・パラグライダー</li> <li>・ドルフィン体験</li> <li>・下田魚市場見学</li> <li>・海岸学</li> </ul> <p>※教育旅行協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗馬</li> <li>・ツリークライミング</li> <li>・マウンテンバイク</li> <li>・里山遊び</li> <li>・調理体験（ポーレポーレ） もちつき、石釜ピザ まんじゅう、味噌 そば、こんにやく うどん、かまどご飯</li> <li>・柿、みかん狩</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陶芸</li> <li>・ちりめん細工</li> <li>・シークラフト作り</li> <li>・海藻押し葉</li> <li>・ハンプリングアート</li> <li>・ひもの開き</li> <li>・ボランティアガイドツアー</li> </ul> <p>※空店舗の活用</p>					
<div style="text-align: center;"> <p>（参考）下田市自然体験活動推進協議会構成員</p> <p>下田市長（会長）、下田市観光協会長（副会長）、伊豆海洋自然塾代表（副会長）            下田ボランティア協会、伊豆下田地区教育旅行協議会、加増野ポーレポーレ            なのりその会、下田市振興公社、下田ルネックウォーキング協会、ビッグシャワー実行委員会</p> </div>							

(3) 30カラースプロジェクト (事前協議調書)

現 状 課 題	価値観やニーズの多様化に伴い、下田の多様な魅力を活かした観光ソフトの開発や普及が求められているが、本市の多様な魅力の掘り起こしや情報発信が不十分である。																	
目 的	本市の多様な魅力を掘り起こし、ニーズごとにリーフレットを作成し、魅力を視覚化するとともに、ユーザーの要望に応じた情報を提供し、下田で快適に楽しく過ごすための観光スタイルを確立することを目的とする。																	
事業概要 予 算	<p>1 下田30カラースブラッシュアップ事業 ○既存リーフレットのブラッシュアップ、増刷、新規リーフレットの作成 ○リーフレットをブラッシュアップするためのモニターツアーの実施 ○タクシー会社と共同で新たなコースを設定、モニタリング、商品化 ○市民対象の企画ツアーの実施、ワークショップの開催、企画内容の再構築</p> <p>2 下田30カラース人材育成事業 ○ユーザーを案内できるコンシェルジュの育成 ○タクシー運転手を観光ガイドとして育成 ○おもてなしプログラムとの連携</p> <p>3 下田30カラーススーベニア事業 ○下田30カラースブランド商品の共同開発 (パッケージデザイン、販売手法検討) ○リーフレットの作成、販売、ネット販売</p> <p>4 下田30カラース情報発信事業 ○下田30Webの構築 (動画作成、YOUTUBE配信、新企画の紹介、Facebookの活用) ○下田30カラース総合案内誌の発行 ○エージェントとのコラボレーション商品の開発</p> <p>5 概算事業費 (観光協会着手済事業のため全体事業予算のみ記載)</p> <p style="text-align: right;">(単位：千円)</p> <table border="1" data-bbox="328 1697 1436 1998"> <thead> <tr> <th></th> <th>事業内容</th> <th>事業費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブラッシュアップ</td> <td>リーフレット3,000千、モニターツアー2,700千、広報パンフ700千、</td> <td rowspan="2">6,700</td> </tr> <tr> <td>人材育成</td> <td>ワークショップ 300千</td> </tr> <tr> <td>スーベニア</td> <td>商品開発1,000千、リーフレット400千、ネット販売フォーム200千</td> <td>1,600</td> </tr> <tr> <td>情報発信</td> <td>動画作成200千、Web300千、総合案内誌200千 他</td> <td>1,700</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">事業費計</td> <td>10,000</td> </tr> </tbody> </table>		事業内容	事業費	ブラッシュアップ	リーフレット3,000千、モニターツアー2,700千、広報パンフ700千、	6,700	人材育成	ワークショップ 300千	スーベニア	商品開発1,000千、リーフレット400千、ネット販売フォーム200千	1,600	情報発信	動画作成200千、Web300千、総合案内誌200千 他	1,700	事業費計		10,000
	事業内容	事業費																
ブラッシュアップ	リーフレット3,000千、モニターツアー2,700千、広報パンフ700千、	6,700																
人材育成	ワークショップ 300千																	
スーベニア	商品開発1,000千、リーフレット400千、ネット販売フォーム200千	1,600																
情報発信	動画作成200千、Web300千、総合案内誌200千 他	1,700																
事業費計		10,000																

事業費	10,000千円
実施期間	平成25年4月～
その他	他のプロジェクトと連携し、まち全体のブランドイメージの創出に努める。
実施体制	<div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>下田市観光まちづくり推進本部</b></p> <p>下田市長、観光協会長、商工会議所会頭 伊豆漁協組合長、J A伊豆太陽組合長 事務局（下田市観光交流課）</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>下田市観光まちづくり連携推進幹事会</b></p> <p>観光協会、商工会議所、伊豆漁協、J A伊豆太陽 下田市（産業振興課、観光交流課）</p> </div> <div>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>下田30カラースプロジェクト</b></p> <p>下田市観光協会（事務局） 下田ハッピープロジェクト（2名） 下田市ビッグシャワー実行委員会 下田温泉旅館協同組合 下田市観光交流課</p> </div> </div>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 30カラース 下田の魅力を旅のニーズに合わせて、30種類のテーマに編集されたリーフレット。</li> <li>・ ブラッシュアップ 一定のレベルに達した状態から、さらにみがきをかけること。</li> <li>・ コンシェルジュ 特定の分野や地域情報などを紹介・案内する人。</li> <li>・ スーベニア おみやげ。記念品。</li> <li>・ コラボレーション 異なる分野の人や団体が協力して製作すること。共同制作。共同事業。</li> </ul>

(4) 美味しいまちづくりプロジェクト（事前協議調書）

<p>現 状 課 題</p>	<p>農林水産業は、就業者の高齢化や後継者不足等により生産基盤が弱まっており、担い手の育成や地場産品のブランド化などの取組が求められている。また、訪れる人の食への満足度はリピーターに繋がることから、魅力ある土産品や地場の食材を活用したご当地グルメの開発が求められている。</p>
<p>目 的</p>	<p>本市の食材や産品を活用した特産品を開発するとともに、ブランドイメージを確立し、営みのできるまちづくりを推進することを目的とする。</p>
<p>事業概要 予 算</p>	<p>1 下田ブランド発掘事業 1) 下田ブランドコンテスト ○平成25年度 ・企画書の作成、部門の検討、実施準備 下田市推奨品との調整、美しい里山づくりプロジェクトとの連携 ○平成26年度～・コンテストの実施（下田30カラースーベニア事業と連携）</p> <p>2 下田ブランド確立事業 1) 下田ブランド情報発信事業 ○平成26年度～・下田30カラースリーフレット作成 ・下田30Webでの紹介 ・下田30カラースーベニア事業との連携によるネット販売 ・県東京案内所等での販売促進</p> <p>2) 下田ブランド活用事業 ○平成26年度～・行政、経済団体等による積極的活用 ・下田ブランド物産展の開催（フラワー都市、姉妹都市など他市町） ・下田ブランドの出展（黒船祭、あじさい祭、水仙祭など） ○きんめブランド化推進事業 下田きんめだる（きんめ商品開発）、きんめ井（きんめがどーん）、 下田稲取「きんめ大海戦」 ○地魚・磯魚・雑魚の活用推進事業・・・天草、ところてん、貝の缶詰（かいかーん）など</p> <p>3 下田ブランド増産推進事業 1) 美しい里山づくりプロジェクトの副産物の増産 ○平成27年度～・竹材、木材を活用した副産物の増産体制の確保（需要による） 美しい里山づくりプロジェクトとの連携</p>

4 概算事業費

(単位：千円)

年度	事業内容	事業費(千円)
25年度	準備期間	
26年度	下田ブランドコンテスト	1,000
	下田ブランド情報発信(販売促進経費)	500
	下田ブランド活用(物産展開催経費)	500
27年度	下田ブランド情報発信(販売促進経費)	500
	下田ブランド活用(物産展開催経費)	500
28年度	下田ブランドコンテスト	1,000
	下田ブランド情報発信(販売促進経費)	500
	下田ブランド活用(物産展開催経費)	500
事業費計		5,000

※ リーフレット、Web紹介、ネット販売は、下田30カラーズで対応

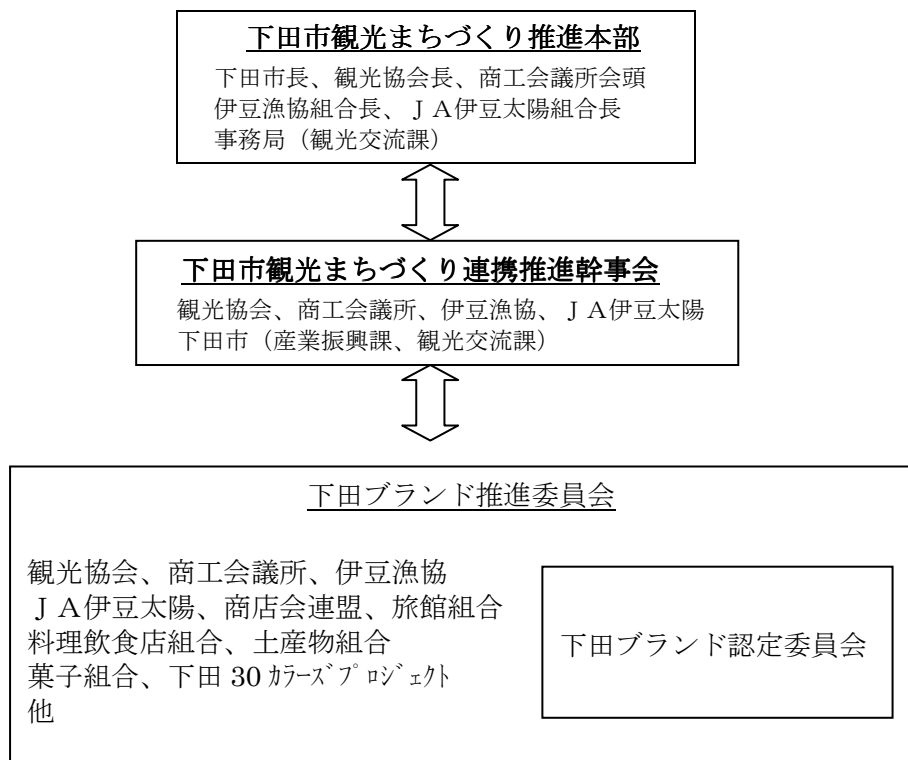
※ 下田ブランド増産推進事業は、他プロジェクトと連携して対応

事業費 5,000千円

実施期間 平成25年4月～平成28年3月

その他 下田ブランドコンテスト実施場所や下田ブランド商品の提供、販売等の発信拠点となる中心市街地との連携が必要となる。

実施体制





### 3 プロジェクトの実践に向けて

下田市観光基本計画を策定するため、平成23年9月8日に第1回下田市観光振興推進会議を開催しましたが、どこにでもある基本計画を策定することの必要性が問われるとともに、計画の実現性について委員からの厳しい意見が相次ぎました。しかしながら、アクションプランは必要であるとの認識から観光を振興するための課題を抽出し、それらの課題を解決するための実現可能な計画を策定するための準備作業を観光振興推進会議で行うこととしました。

平成24年9月5日に開催した第1回観光振興推進本部での協議の結果、総論及び方針は本部で作成し、推進会議はアクションプランを作成することを決定しました。その後、第2回推進本部で素案を検討した結果、観光は総合産業であるとの認識から、第1次産業の振興も含めた計画とする必要性が認識され、推進会議においても同様の認識がされたところです。

そこで、本計画を単なる観光地づくりの計画とするのではなく、様々な主体や組織、そして市民が連携して行動を起こす「観光まちづくり推進計画」とし、本市の抱える諸課題を解決するとともに、下田の魅力発掘し、磨き、発信することにより「市民の営みが活きるまち」づくりを推進し、「暮らす人も、訪れる人も快適なまち「快国」下田」を目指すことといたしました。

本計画の策定段階では、従来の市民参加型の策定手法ではなく、市民行政一体型の組織による手作りの計画としたため、計画の必要性も含めて多くの意見が出され、紆余曲折する時期もありました。

また、アクションプラン策定段階においても、多様な意見がありましたが、提案事業の中から優先して実践すべき事業を4つのプロジェクトとして、取りまとめました。

それぞれのプロジェクトの目的や事業概要は、調書としてまとめましたが、今後、プロジェクトを実践するための体制を早急に設置し、調書の内容を協議、修正し、より現実的で効果的な内容にブラッシュアップした上で、実践する必要があります。

なお、本計画に掲げられたプロジェクトを実践するために必要な事項は、次のとおりです。

#### (1) 実践できる組織及び人材の必要性

各プロジェクトを実践するためには、行政はもとより関連団体、観光関連事業者、市民や市民団体等の多様な主体が連携し、オール下田で観光まちづくりを推進しなければなりません。

そのため、プロジェクトを実践できる組織を早急に設置し、必要な人材を配置するとともに、交通事業者や旅行会社などとの連携体制を構築する必要があります。

#### (2) 計画的な予算確保の必要性

各プロジェクトを実践するためには、実践組織において、提示した調書の事業費や事業工程を精査するとともに、必要な予算を確保しなければなりません。

そのため、国や県の動向を注視し、財源確保に努めるとともに、必要な予算を確保し、計画

的にプロジェクトを実践する必要があります。

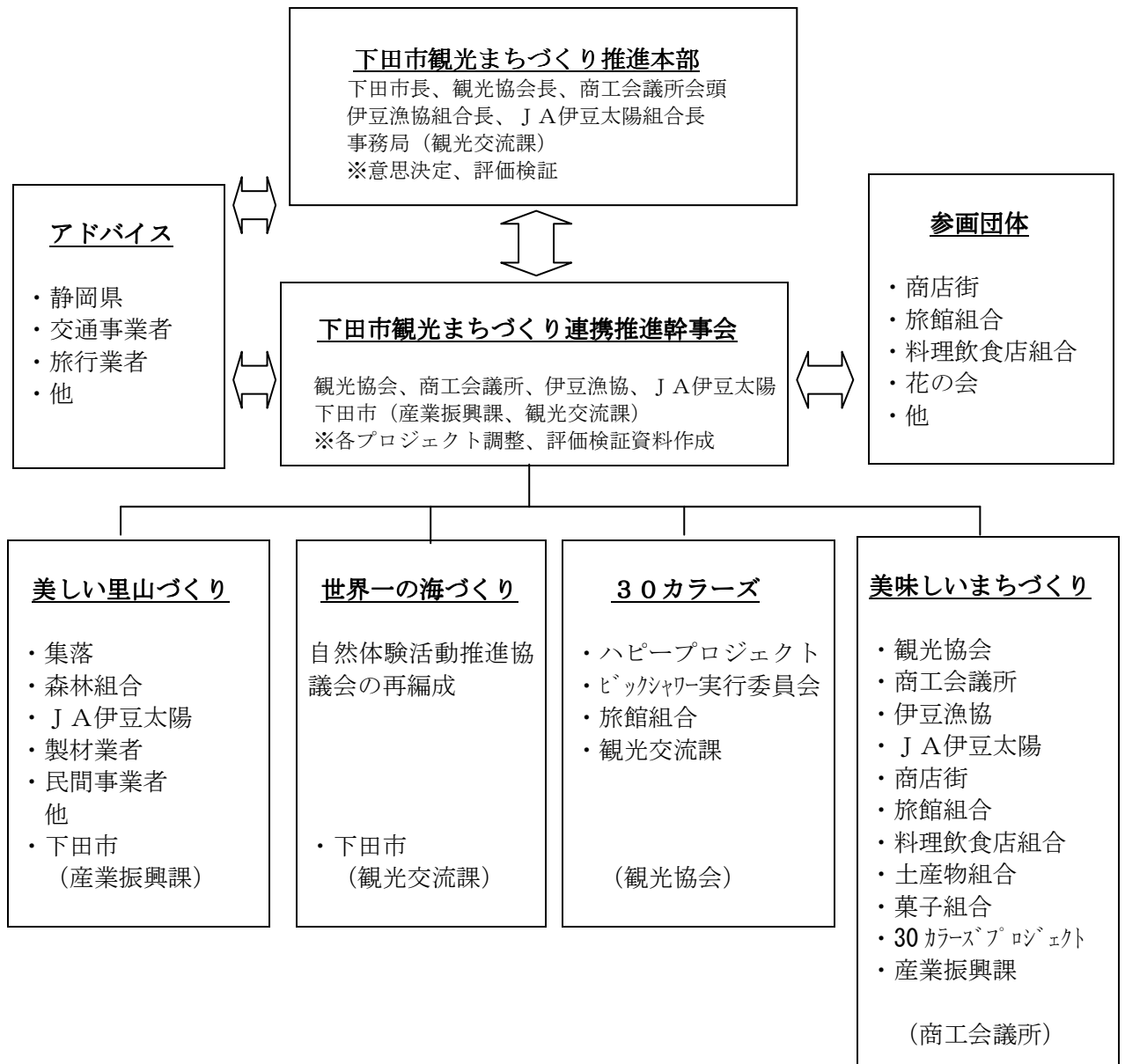
### (3) 評価・検証の必要性

各プロジェクトを成功に導くためには、達成状況や成果を評価・検証するとともに、プロジェクトにその結果を反映し、常に内容を改善しなければなりません。

そのため、計画し、実施し、その評価を行い、改善するというプロセスを繰り返すことによって、事業の成果を追求しつつ、より効果的で市民要望と合致したプロジェクトに改善する仕組みを構築する必要があります。

### (4) 組織・体制の提案

本計画に掲げたプロジェクトを実施するための組織・体制のイメージを次のとおり提案します。



## 「下田市観光まちづくり推進計画」の策定経過

日程	事項	内容
平成23年		
9月8日	第1回 下田市観光振興推進会議	経過説明、策定方針説明、会議の進め方協議等
10月14日	第2回 下田市観光振興推進会議	他市の計画説明、今後の協議方法検討
11月8日	第3回 下田市観光振興推進会議	黒船祭意見交換、SWOT分析(強みの検討)
12月1日	第4回 下田市観光振興推進会議	SWOT分析(弱み、機械、脅威の検討)
平成24年		
1月18日	第5回 下田市観光振興推進会議	SWOT分析、あじさい・きんめ祭り意見交換
2月16日	第6回 下田市観光振興推進会議	誘客のための課題、必要事項協議
3月22日	第7回 下田市観光振興推進会議	観光立国推進基本計画(観光庁)の検討
9月5日	第1回 下田市観光振興推進本部	経過説明、総合計画、観光ビジョン配布
10月3日	第8回 下田市観光振興推進会議	市長との意見交換、総論及び方針素案提示
10月18日	第2回 下田市観光振興推進本部	総論及び方針素案提示
11月20日	第9回 下田市観光振興推進会議	アクションプラン協議
12月18日	第3回 下田市観光振興推進本部	修正事項確認、方針協議、アクションプランの構成確認
平成25年		
2月4日	第10回 下田市観光振興推進会議	アクションプラン協議
2月13日	第4回 下田市観光振興推進本部	修正事項確認、アクションプランの確認
2月19日	政策会議	素案提示
2月20日	課長会議	素案提示
2月21日	下田市議会全員協議会	素案提示
2月27日～3月28日	パブリックコメント募集	
4月15日	下田市観光振興推進本部・推進会議合同会議	
4月17日	政策会議	

## 「下田市観光まちづくり推進計画」策定体制

### 下田市観光振興推進本部委員

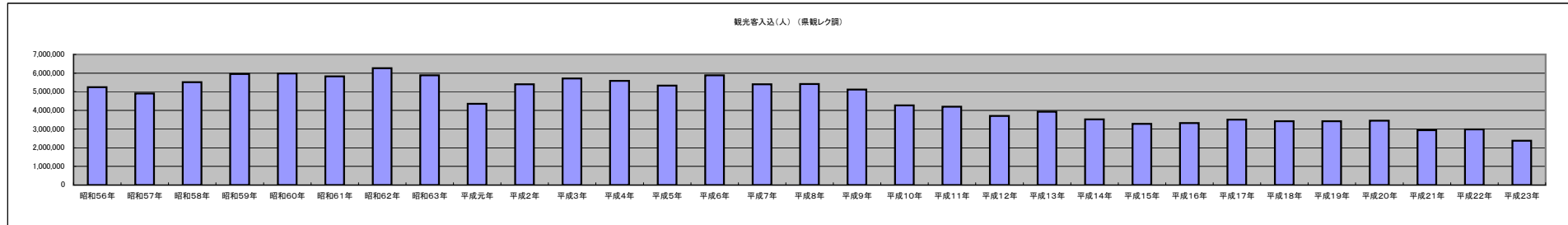
所属等	職名	氏名
下田市	市長	楠山 俊介
(一社)下田市観光協会	会長	松井 大英
下田商工会議所	会頭	田中 豊
伊豆太陽農業協同組合	代表理事組合長	村上 英喜
伊豆漁業協同組合	代表理事組合長	佐藤 泰一

### 下田市観光振興推進会議委員

所属等	職名	氏名
(一社)下田市観光協会		渡邊 一夫
(一社)下田市観光協会		岡崎 大五
下田商工会議所 青年部		渡辺 一彦
伊豆漁業協同組合	業務担当参事	松村 知理
伊豆太陽農業協同組合	総括支店長 (～H24)	黒田 豊
	(H25～)	益原 興一
下田温泉旅館協同組合		奥居 麗
下田市民宿組合連合会	事務局長	伊藤 静枝
伊豆急ホールディングス(株)	観光企画課総括課長	比企 恒裕
下田料理飲食組合	理事	土屋 修
下田ボランティアガイド協会	会長 (～H24)	伊藤 敦
	(H25～)	杉坂 太郎
下田青年会議所	理事長	相馬 知也
下田市商店会連盟		臼井 一宏
下田市自然体験活動推進協議会	副会長	齋藤 武
下田海中水族館	総支配人	中野 浩一郎
一般市民		長池 麻紀
下田市役所 産業振興課	主査 (～H24)	芹澤 直人
	(H25～)	鈴木 諭
下田市役所 企画財政課	主事 (～H23)	金守 俊彦
	(H24～)	原 隆史

## 観光客入込状況調

年度	観光客入込(人) (県観レク調)	温泉旅館宿泊(人) (県観レク調)	各催事の入込(人)						特記事項	観光客入込 (前年比)
			海水浴客	水仙まつり	あじさい祭	黒船祭	ビッグシャワー	椿まつり		
昭和56年	5,244,225	1,241,066	1,460,800	200,000	210,000	150,000			夏季好天	
昭和57年	4,900,429	1,301,369	1,020,685	330,000	300,000	150,000			長梅雨・冷夏・台風	93.44%
昭和58年	5,519,694	1,261,649	1,536,100	370,000	350,000	150,000				112.64%
昭和59年	5,953,933	1,415,819	1,730,600	400,000	320,000	150,000			夏季好天	107.87%
昭和60年	5,975,579	1,496,776	1,562,000	420,000	350,000	150,000			つくば博	100.36%
昭和61年	5,833,199	1,585,769	1,128,000	420,000	380,000	160,000			梅雨遅・短夏	97.62%
昭和62年	6,263,414	1,580,244	1,074,000	480,000	380,000	50,000			梅雨遅	107.38%
昭和63年	5,884,018	1,511,334	722,000	480,000	330,000	165,000			天候不順	93.94%
平成元年	4,357,156	1,248,232	670,000	480,000	420,000	160,000			伊東沖海底噴火	74.05%
平成2年	5,406,563	1,415,872	919,206	480,000	400,000	160,000			好天	124.08%
平成3年	5,717,213	1,783,041	1,011,431	490,000	350,000	175,000			景気減退・冷夏	105.75%
平成4年	5,592,471	1,675,745	1,094,685	430,000	360,000	170,000	12,000		景気停滞	97.82%
平成5年	5,334,920	1,805,740	832,475	450,000	320,000	211,000	39,000		景気停滞・伊豆東方沖群発地震・冷夏・長雨	95.39%
平成6年	5,884,715	1,867,153	1,189,414	500,000	300,000	218,990	45,000		猛暑・少雨	110.31%
平成7年	5,399,798	1,489,862	1,109,812	490,000	320,000	226,630			景気低迷・阪神淡路大震災	91.76%
平成8年	5,414,108	1,617,257	984,408	540,000	240,000	323,043			伊豆東方沖群発地震・天候不順	100.27%
平成9年	5,114,940	1,639,718	875,874	430,000	220,000	284,872			伊豆東方沖群発地震・天候不順	94.47%
平成10年	4,277,160	1,057,699	966,040	480,000	187,000	185,696	70,000			83.62%
平成11年	4,197,912	1,050,086	796,397	500,000	211,000	215,786	35,000			98.15%
平成12年	3,708,259	959,313	583,771	476,000	191,000	194,806	35,000	1,500	三宅島・神津島等近海地震	88.34%
平成13年	3,926,028	1,008,412	777,668	533,000	220,000	257,585	20,000	2,900	台風11号・15号通過	105.87%
平成14年	3,526,812	989,056	617,155	480,000	189,000	212,000	28,000	2,000		89.83%
平成15年	3,284,810	972,185	470,322	430,000	201,000	230,621	30,000	2,000	お盆集中豪雨	93.14%
平成16年	3,324,191	985,951	616,936	322,000	181,100	273,000	25,000		下田開港150周年・秋季台風通過	101.20%
平成17年	3,507,890	1,080,223	609,996	341,000	192,900	216,470	30,000		愛・地球博開催	105.53%
平成18年	3,429,193	1,198,556	600,015	301,000	175,299	159,160	35,000			97.76%
平成19年	3,418,601	1,194,808	572,467	272,000	186,100	200,445	30,000			99.69%
平成20年	3,457,344	1,117,473	650,114	291,000	171,100	220,065	35,000			101.13%
平成21年	2,943,673	866,118	543,321	250,000	181,200	184,535	30,000			85.14%
平成22年	2,978,550	805,939	655,100	270,000	152,400	199,160	30,000		猛暑・3月11日東日本大震災	101.18%
平成23年	2,380,979	763,957	474,590	224,000	112,800				黒船祭・ビッグシャワー中止	79.94%



海水浴場: 夏季対策調  
 水仙まつり・あじさい祭: 観光協会調  
 黒船祭: 黒船祭執行会調  
 ※昭和62年の黒船祭は雨天の為初日の花火のみの入込

発行日 平成 25 年（2013 年）4 月  
発行 静岡県下田市  
企画・編集 下田市観光交流課  
〒415-8501 静岡県下田市東本郷一丁目 5 番 18 号  
TEL 0558-22-3913  
FAX 0558-22-3910  
e-mail [kankou@city.shimoda.shizuoka.jp](mailto:kankou@city.shimoda.shizuoka.jp)  
URL <http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/>

